

平成28年度版『現代の国語』年間学習指導計画作成資料（案）

はじめに

この資料は、『現代の国語』各教材における評価規準の例を示したものです。

「学習目標」「学習活動」と対応させて、「おおむね満足できる」状況と判断される「評価規準B」, 「十分満足できる」状況と判断される「評価規準A」, そして「努力を要する」状況と判断される「評価規準C」を示しました。また、「評価規準C」については、そのような状況にある学習者への具体的な手だても示しています。さらに、学習指導要領の指導事項および言語活動例との対応についても記しています。

「評価規準B」については、教科書で学習者に提示している「学習目標」とできるだけ対応するようにして、学習者も目標と授業者の評価の観点とがずれないように意図しています。ただし、項目数を絞っていますので、指導の重点や学習者の実態に応じて、付加・修正してご活用ください。

「評価規準A」については、Bの状況から卓越した水準にあると想定される学習者の具体的な状況を記述しています。これも、一部の例のみを示していますので、「A」と評価される学習者の具体的な姿は、他にも多様に想定されます。大きくは、程度が増している状態（「さらに……」「より……」など）、関心を広げたり他に応用・活用しようとしている状態、見通しをもち自律的に活動している状態、学習したことの意味を自覚したり効果を評価したりしている状態などの観点から、「A」を想定しました。

「評価規準C」についても、ここに示したものの以外の、多様な状況が想定されます。「C」の状態を脱するための支援・指導を行うことで、「B」の状況になることが期待されますが、「C」の状況が多様であることから、ここで示している手だてを用いれば、すべての状況が改善されるということにはなりません。ここにあげている記述を起点として、学習目標や「B」と対応させながら、より多くの「C」の具体的な状況を想定していただければ幸いです。

なお、「関心・意欲・態度」についての「評価規準C」および、その改善のための具体的な手だてについては例示しておりませんが、大きくは、情意面と、知識・技能面とに二分して考えることができます。

前者については、学習することの意義を伝えたり、学習者の体験との関連性を示したり、学習のゴールをイメージ化して示したりすることによって改善が可能になると思われます。後者については、方法を具体的に示したり、ステップを細分化したり、学習者同士で協働させたりするような手だてが考えられます。また、それ以前の学習が「つまずき」のもとになっていることも考えられます。

特に、知識・技能面の不足のために「できない」と思っていることが関心・意欲を低下させていると思われる点については、「話す・聞く能力」「書く能力」「読む能力」や、「言語についての知識・理解・技能」として設定した評価規準を参考に、補うべき知識・技能について手だてを講じていただくことが、関心・意欲の向上にもつながるものと考えます。

この資料が、学習指導案の作成や学習者の評価に活用されることはもちろん、学習者の具体的な姿や段階をイメージして評価規準を作成することを支え、授業改善や学力向上に結実することを願っています。

配当授業時数等について

年間の総授業時数は、1年・2年140時間（週4時間）、3年105時間（週3時間）とし、各領域・事項の配当授業時数は、編成上の目安として、表のように想定しました。

表 各領域・事項の配当授業時数

	1年 (140)	2年 (140)	3年 (105)
話す・聞く	16 (15～25)	15 (15～25)	14 (10～20)
書く	30 (30～40)	29 (30～40)	20 (20～30)
読む	47	45	39
伝国	27	31	22
小計	120	120	95
書写	20	20	10
総授業時数	140	140	105

※（ ）内の数字は、学習指導要領に示された時数です。

学習指導要領の指導事項と本資料での略称

領域	略号	1年	2年	3年	事項	略号	1年	2年	3年
話すこと・聞くこと	Aア	話題設定や取材	話題設定や取材	話題設定や取材	伝統的な言語文化	伝国ア(ア)	文語のきまりや訓読の仕方を知り、古文や漢文を音読して、古典特有のリズムを味わいながら、古典の世界に触れること。	作品の特徴を生かして朗読するなどして、古典の世界を楽しむこと。	歴史的背景などに注意して古典を読み、その世界に親しむこと。
	Aイ	話すこと	話すこと	話すこと					
	Aウ			聞くこと					
	Aエ	聞くこと	聞くこと	話し合うこと					
	Aオ	話し合うこと	話し合うこと	—					
書くこと	Bア	課題設定や取材	課題設定や取材	課題設定や取材・構成	言葉の特徴やきまり	伝国イ(イ)	古典には様々な種類の作品があることを知ること。	古典に表れたものの見方や考え方に触れ、登場人物や作者の思いなどを想像すること。	古典の一節を引用するなどして、古典に関する簡単な文章を書くこと。
	Bイ	構成	構成	記述					
	Bウ	記述	記述	推敲					
	Bエ	推敲	推敲	交流					
	Bオ	交流	交流	—					
読むこと	Cア	語句の意味の理解	語句の意味の理解	語句の意味の理解	漢字	伝国ウ(ア)	漢字の読み	漢字の読み	漢字の読み
	Cイ	文章の解釈	文章の解釈	文章の解釈					
	Cウ		自分の考えの形成	自分の考えの形成					
	Cエ	自分の考えの形成	読書と情報活用	読書と情報活用					
	Cオ	読書と情報活用	—	—					
	Cカ	読書と情報活用	—	—					

評価規準の観点と本資料での略称

関：国語への関心・意欲・態度

話聞：話す・聞く能力

書：書く能力

読：読む能力

言：言語についての知識・理解・技能

■ 本資料の評価規準は、その教材での学習活動全体を通じた包括的な規準を示しています。

各時間に行う評価については、各時間の目標と学習活動に即した、より具体的な評価規準の設定を想定しています。

平成28年度版『現代の国語』年間学習指導計画例

■1年

月	単元名	教材名【領域】 ●学習目標	時数	おもな学習活動	評価規準B (おおむね満足できる状況)	評価規準A (十分満足できる状況)	評価規準C(努力を要する状況)とその手だて	学習指導要領 の指導事項・ 言語活動例	
4	新しい世界へ	朝のリレー【読(詩)】 ●表現に着目しながら読み、詩に表れているものの見方や考え方を捉える。	2	◆学習目標を確認し、学習の見直しをもつ。 1 詩に出てくる地名を地球儀や地図で確認したうえで朗読する。 2 詩を読んで考えたことを書く。 [学びをひろげよう] 3 A 詩に合う写真や音楽を探して朗読会を開く。 B 詩に出てきたフレーズを使って詩を作る。 ◆学習目標を再確認し、学びを振り返る。	関 詩に表れているものの見方や考え方を捉えようとしている。 読 表現に着目しながら読み、詩に表れているものの見方や考え方を捉えている。 言 事象や行為などを表す多様な語句について理解を深めている。	関 詩に表れているものの見方や考え方を捉え、自分の考えと比べたり、他の学習者と積極的に交流しようとしている。 読 詩に表れているものの見方の独自性や表現の効果について、評価しながら読んでいる。 言 語句が詩の中でも多様な意味や効果について、理解を深めている。	読 詩に表れているものの見方や考え方に着目できない。 →題名や「交替で地球を守る」など、具体的な箇所を一つ取りあげて考えさせたり、例示したりする。 言 語句の意味を面的にしか捉えられていない。 →「朝」や「リレー」の別の意味を考えさせたり、「いわば」の意味を国語辞典で確認させたりする。	Cオ [言語活動] Cア(音読・朗読)	
		オオカミの友だち【読(物語)】 ●場面の展開や登場人物の描写に注意して読み、登場人物の気持ちの変化を捉える。	4	◆学習目標を確認し、学習の見直しをもつ。 1 「オオカミ」のこぼれや気持ちに対して、「クマ」はどんな行動をしたのか確認する。 2 最後の場面で、「オオカミ」が「二人で食べた魚の味が懐かしくなる」のはなぜか、理由を考える。 [学びをひろげよう] 3 登場する動物が、どうして「オオカミ」と「クマ」なのか、考えたことを話し合う。 ◆学習目標を再確認し、学びを振り返る。	関 展開や描写に注意して、登場人物の気持ちの変化を捉えようとしている。 読 場面の展開や登場人物の描写に注意して読み、登場人物の気持ちの変化を捉えている。 言 事象や行為などを表す多様な語句について理解を深めている。	関 展開や描写の巧みさや、登場人物の気持ちの変化のおもしろさを評価しながら読んでいる。 読 場面の展開や登場人物の描写と登場人物の気持ちの変化との関連を評価しながら読んでいる。 言 会話や心情表現において用いられている語句の表現効果について理解を深めている。	読 登場人物の気持ちの変化を捉える観点が変わらない。 →オオカミの心情表現(心内表現)に着目させ、前の場面と比べさせる。 言 登場人物の気持ちを捉えるための語句に着目できない。 →心内表現(「う」)や、地の文(「用心して」「ちよっとうれしくなつて」)が観点になることを例示する。	Cウ [言語活動] Cア(音読・朗読)	
		聞き上手、話し上手になるためにスピーチ【話聞】 ●話す速度や音量、ことばの調子や間の取り方、身振りや手振りなどの効果を意識しながら話す。 ●相づちやうなずきなどにより、話し手が話しやすい環境を作りながら聞く。	4	◆学習目標と学習の流れを確認し、学習の見直しをもつ。 1 スピーチ実験をする。 ・実験1:聞き方を変えてみる。 ・実験2:話し方を変えてみる。 2 実験について振り返り、話し合う。 3 スピーチ発表会を開く。 ・テーマを選ぶ。 →p260資「さまざまな思考方法を使う」 ・スピーチメモを作って、練習を重ねる。 →p262資「メモを活用する」 ・スピーチをする。 ◆学習目標を再確認し、学びを振り返る。	関 聞き上手、話し上手の技を意識しながら、スピーチ実験やスピーチに積極的に取り組んでいる。 話聞① 話す速度や音量、ことばの調子や間の取り方、身振りや手振りなどの効果を意識しながら話している。 話聞② 相づちやうなずきなどにより、話し手が話しやすい環境を作りながら聞いている。 言 音声のはたらきやしくみについて理解を深めている。	関 聞き上手、話し上手の技の効果意識しながら、スピーチ実験やスピーチに取り組んでいる。 話聞① 話す速度や音量、ことばの調子や間の取り方、身振りや手振りなどを自覚しながら、意図的に活用して話している。 話聞② 相づちやうなずきなどの効果を自覚し、話し手が話しやすい環境を意図的に作りだして聞いている。 言 音声のはたらきやしくみとその効果的な活用について具体的に理解を深めている。	話聞① 聞き手を意識することができない。 →ことばの調子や間の取り方、身振り手振りなどによって、聞き手に与える印象が異なることに気づかせる。 話聞② 話し手の話しやすさを意識できない。 →聞き手の相づちやうなずきによって、話し手が話しやすくなることに気づかせる。 言 話す速度や音量などはたらきが意識できない。 →話す速度や音量などを変えた話し方・聞き方をさせることによって気づかせる。	Aウ [言語活動] Aア(紹介)	
5	①わかりやすく伝える	読み方を学ぼう①【説明文の基本構造】ペンギンの防寒着	1	◆学習目標を確認し、学習の見直しをもつ。 1 筆者が立てた「問い」を探し出し、手がかりになることばに注意して、「問い」に対する「仮説」を見つける。 2 文章を「序論」「本論」「結論」に分ける。 3 筆者が読み手にわかりやすく伝えるためにしている工夫を探して、その効果を考える。 4 「クジラの飲み水」を読むときに、「ペンギンの防寒着」で学んだ読み方の、どんなところを活用したか、発表し合う。 [学びをひろげよう] 5 A・Bどちらかの課題を選んで取り組む。 A 写真やグラフが示されていることの効果を考える。 B もう一つ写真や図表を入れるとしたら、どのようなものをどこに入れるのか、考える。 ◆学習目標を再確認し、学びを振り返る。	関 文章の展開を捉えて内容を読み取ったり、表現の工夫を捉えたりしようとしている。 読① 段落と段落の関係に着目しながら、文章の展開を捉え、内容を読み取っている。 読② 読み手にわかりやすく伝えるための、筆者の表現の工夫を捉えている。 言 指示する語句や接続する語句などに注意して読んでいる。	関 文章の展開と内容を関連させて読み取ったり、表現の工夫を評価したりしようとしている。 読① 段落と段落の関係に着目しながら、文章の展開の意義や効果の評価しながら、内容を読み取っている。 読② 読み手にわかりやすく伝えるための、筆者の表現の工夫の意義や効果の評価している。 言 指示する語句や接続する語句などの機能や効果を捉えている。	読① 段落と段落の関係を捉える観点が変わらない。 →本文中から「問い」を探させ、その「答え」となる部分を探し出させる。 読② 筆者の表現の工夫が捉えられない。 →「ペンギンの防寒着」の本文の上段や下段に示された内容を確認させて、同様の観点での工夫がないか、探させる。 言 指示する語句や接続する語句などが見つけられない。 →指示する語句や接続する語句などを例示して、その役割について考えさせる。	Cエ [言語活動] Cイ(文章と図表との関連)	
		クジラの飲み水【読(説明)】 ●段落と段落の関係に着目しながら、文章の展開を捉え、内容を読み取る。 ●読み手にわかりやすく伝えるための、筆者の表現の工夫を捉える。	4						
		文法のまど1 ことばの単位・文節の関係【言】 →文法のまとめ ●ことばの単位・文節の関係について理解する。	2	1 文・文節・単語ということばの単位について理解する。 2 p216-220「文法のまとめ」「1 ことばの単位」 「2 文節の関係・連文節・文の成分」について理解する。 3 p220の「確認しよう」を用いて、学習したことを確かめる。	関 ことばの単位・文節の関係に関心を持ち、積極的に課題に取り組んでいる。 言 ことばの単位・文節の関係について理解している。	関 「確認しよう 練習問題1」の課題をとおして、ことばの単位・文節の関係への関心をさらに深めている。 言 ことばの単位・文節の関係について、具体的な文章の中での確に指摘している。	言 主語・述語の関係や修飾語・被修飾語の関係に気づいていない。 →述語や被修飾語を取り除いた形の文を示し、文を完成させる。	伝国イ(エ)	
6		調べたことを整理して、わかりやすくレポート【書】 ●調べて集めた情報を分析・整理して、まとめや順序を考えて文章を構成する。 ●わかりやすい説明になるように、表・グラフ・イラストなどを効果的に用いる。	6	◆学習目標と学習の流れを確認し、学習の見直しをもつ。 1 「問い」を手がかりにして、レポートの課題を決める。 2 情報を集めて、整理する。 ・調査してわかったことをカードに記録する。 ・集めた情報を分類し、整理する。 ・「グルーピング」「ラベリング」「ナンバリング」の手法を活用する。 →p234資「情報探しのヒント」/p264資「インタビューをする」 3 レポートにまとめる。 ◆学習目標を再確認し、学びを振り返る。	関 調べたことを整理して、わかりやすいレポートを書こうとしている。 書① 調べて集めた情報を分析・整理して、まとめや順序を考えて文章を構成している。 書② わかりやすい説明になるように、表・グラフ・イラストなどを効果的に用いている。 言 接続する語句・指示する語句などに注意して書いている。	関 わかりやすいレポートを書くための多様な方法を自覚的に活用しようとしている。 書① 調べて集めた情報を分析・整理し、まとめや順序の意義や効果を理解して文章を構成している。 書② よりわかりやすい説明になるように、独自の工夫をしている。 言 接続する語句・指示する語句などを効果的に用いている。	書① 情報を分析・整理できない。 →カードの活用の仕方を示す。 書② 表・グラフ・イラストなどを用いていない。 →「レポートを書くときのポイント」を確認して、どこにどんな図表を入れるか考えさせる。 言 指示する語句や接続する語句などを用いていない。 →指示する語句や接続する語句などを例示して、その役割について考えさせる。	Bイ [言語活動] Bイ(図表を用いた説明)	
		漢字のしくみ1 活字と手書き文字・画数・筆順【漢】 ●活字と手書き文字・画数・筆順についての理解を深める。	1	1 活字と手書き文字・画数・筆順について考える。 2 「確かめよう」の課題に取り組む。 →p271資「辞典を活用する」	関 活字と手書き文字・画数・筆順に関心を持ち、積極的に課題に取り組んでいる。 言 活字と手書き文字・画数・筆順についての理解を深めている。	関 「確かめよう」の課題をとおして、活字と手書き文字・画数・筆順への関心をさらに深めている。 言 活字と手書き文字・画数・筆順について、具体的な漢字に即して理解を深めている。	言 漢字の画数や筆順を意識できない。 →漢和辞典を引いて、画数と筆順の項目を見つけさせる。	伝国ウ(ア)	

月	単元名	教材名【領域】 ●学習目標	時数	おもな学習活動	評価規準B (おおむね満足できる状況)	評価規準A (十分満足できる状況)	評価規準C(努力を要する状況)とその手だて	学習指導要領 の指導事項・ 言語活動例
		漢字を身につけよう1【漢】 ●漢字の読み書きについての理解を深める。		1 中学校で学習する漢字を読む。 2 中学校で新しく学習する読みを学ぶ。 →p290資「一年生で学ぶ漢字字典」 ※「漢字を身につけよう」は、年間をとおして計7時間を配当している。	関 新しく学習する漢字の読み書きについて関心を深め、意欲的に習得しようとしている。 言 新しく学習する漢字の読み書きについて理解を深めている。	関 「漢字を身につけよう」の課題をとおして、新しく学習する漢字の読み書きへの関心をさらに深めている。 言 新しく学習する漢字の読み書きを確実に身につけている。	言 新しく学習する漢字が読めない。 →参考資料「一年生で学ぶ漢字字典」「一年生で学ぶ音訓」から読み方を探させる。	伝国ウ(ア)
	② か か わ り を と ら え る	空中ブランコ乗りのキキ【読(物語)】 読み方を学ぼう②【人物相関図】鳥の目になって ●場面の展開や登場人物の描かれ方に注意して読む。 ●登場人物の判断や行動について、自分の考えをもつ。	5	◆学習目標を確認し、学習の見直しをもつ。 1 登場人物を書き出し、キキとの関わりを整理する。 2 キキはなぜ四回宙返りに挑んだのか、考える。 3 キキの行動や考え方についての自分の考えを、100字程度の文章にまとめる。 [学びをひろげよう] 4 A・Bどちらかの課題を選んで取り組む。 A 問いを選んで、理由とともに自分の考えをまとめ、グループやクラスで話し合う。 ・「おばあさん」はどのような役割を担っているか。 ・「白い大きな鳥」は何を表しているのか。 B 登場人物を一人選び、その人物から「キキへの手紙」を書く。 ◆学習目標を再確認し、学びを振り返る。	関 場面の展開や登場人物の描かれ方に注意して読み、その判断や行動についての自分の考えをもつとしている。 読① 場面の展開や登場人物の描かれ方に注意して読んでいる。 読② 登場人物の判断や行動について、自分の考えをもっている。 言 事象や行為などを表す多様な語句について理解を深めている。	関 場面の展開や登場人物の描かれ方に注意して読み、その判断や行動についての自分の考えを、他の学習者と比べて相対化しようとしている。 読① 場面の展開や登場人物の描かれ方について、気づいたことを関係づけながら読んでいる。 読② 登場人物の判断や行動についての自分の考えを、他の学習者と比べて相対化したり、別の視点から見直したりしている。 言 事象や行為などを表す多様な語句の表現効果を捉えている。	読① 登場人物について、キキとの関わりを整理できない。 →人物を表すことばに印をつけさせる。 →「人物相関図」を見直して確認させる。 読② 登場人物の判断や行動についての自分の考えをまとめられない。 →キキの生き方に賛成か反対か、それはなぜかを考えさせたり、自分がキキだったらどうするかを考えさせたりする。 言 事象や行為などを表す多様な語句の意味が理解できない。 →「拍手」「人気」「盛大な」などの重要な語句を例示して、作品におけるその重要性に気づかせる。	Cウ・Cオ [言語活動] Cア(音読・朗読)
		ことば発見1 音声のしくみとはたらき【言】 ●音声のしくみとはたらきについての理解を深める。	1	1 日本語の音節や五十音図のしくみなどを理解し、音声のしくみとはたらきについて考える。 2 「五十音図とローマ字」を見て、母音と子音のしくみを確認する。 3 「確かめよう」の課題に取り組む。	関 音声のしくみとはたらきに関心をもち、積極的に課題に取り組んでいる。 言 音声のしくみとはたらきについての理解を深めている。	関 「確かめよう」の課題をとおして、音声のしくみとはたらきへの関心をさらに深めている。 言 音声のしくみとはたらきについて具体的な単語や文に即して理解を深めている。	言 音節のしくみに気づいていない。 →「五十音とローマ字」の表からいくつかの音節のローマ字表記を抜き書きさせる。	伝国イ(ア)
7		チームの力を引き出す 質問【話聞】 ●質問を効果的に使い、自分の考えと同じ点や違う点を確認したり、整理したりする。 ●テーマを探求したり問題を解決したりするための質問や話し合いのあり方について考える。	4	◆学習目標と学習の流れを確認し、学習の見直しをもつ。 1 質問の種類を考える。 ・定める問い(イエス・ノー型/選択型) ・広げる問い(情報取り出し型/思考うながし型) 2 質問の目的と効果を確認する。 ・わからないことを確かめる質問 ・考えを深め、テーマに迫っていく質問 3 話し合いの場面で実践する。 ◆学習目標を再確認し、学びを振り返る。	関 チームの力を引き出す質問を意識して、積極的に話し合っている。 話聞① 質問を効果的に使い、自分の考えと同じ点や違う点を確認したり、整理したりしている。 話聞② テーマを探求したり問題を解決したりするための質問や話し合いのあり方について考えている。 言 語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意し、語感を磨いている。	関 チームの力を引き出す質問の特徴と効果を自覚し、意図的に活用している。 話聞① 質問の意義を理解し、質問の効果を自覚しながら、自分の考えと同じ点や違う点を確認したり、整理したりしている。 話聞② テーマを探求したり問題を解決したりするための質問や話し合いのあり方を、学習経験を根拠にしながら考えている。 言 語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係を自覚しながら、文脈に沿って効果的に用いている。	話聞① 自分の考えと同じ点や違う点を確認められない。 →表を提示し、相手と自分の考えを単語で記させる。 話聞② 質問や話し合いのあり方がイメージできない。 →「質問の目的と効果を確認する」の図を参考に、「問い」の一つを考えさせる。 言 語句の辞書的な意味を文脈上の意味に結び付けられない。 →双方の意味の共通点を考えさせる。	Aエ [言語活動] Aア(質問)
		字のない葉書【読書(随筆)】 読書活動「読書郵便」を楽しもう ●本や文章から情報を集めるための方法を身につけて、目的に応じて必要な情報を読み取る。	2	1 教材文を通読する。 2 図書館などを利用して、随筆を読み、内容を引用して紹介し合う。 →p228資「小さな図書館」	関 随筆を読むことを契機として、目的に応じて本から情報を読み取り、紹介しようとしている。 読 本や文章から情報を集めるための方法を身につけて、目的に応じて必要な情報を読み取っている。 言 事象や行為などを表す多様な語句について理解を深めている。	関 より積極的に本を紹介したり、他の学習者の紹介を聞いたりして、読書の幅を広げようとしている。 読 相手や目的を意識して、本や文章から集めた情報をもつ効果を考えながら、取捨選択できている。 言 効果的な語句や表現に着目して、本を紹介している。	読 本や文章から必要な情報を集めることができない。 →紹介のねらい(相手に伝えたいこと)をはっきりと意識させ、それに即した具体的な語句や表現(例えば「おもしろさ」が伝わる表現)を見つけさせる。 言 本の紹介の中に具体的な語句や表現が出てこない。 →「読書郵便」の例を示し、語句や表現を引用することによって、紹介がより効果的になることを確かめさせる。	Cカ [言語活動] Cウ(引用して紹介)
		漢字を身につけよう2【漢】 ●漢字の読み書きについての理解を深める。		1 中学校で学習する漢字を読む。 2 中学校で新しく学習する読みを学ぶ。 →p292資「一年生で学ぶ漢字字典」	関 新しく学習する漢字の読み書きについて関心を深め、意欲的に習得しようとしている。 言 新しく学習する漢字の読み書きについて理解を深めている。	関 「漢字を身につけよう」の課題をとおして、新しく学習する漢字の読み書きへの関心をさらに深めている。 言 新しく学習する漢字の読み書きを確実に身につけている。	言 新しく学習する漢字が読めない。 →参考資料「一年生で学ぶ漢字字典」「一年生で学ぶ音訓」から読み方を探させる。	伝国ウ(ア)
9	③ 情 報 を 読 み 解 く	食感のオノマトペ【読(説明)】 読み方を学ぼう③【図表と文章】説得力は文字以外でも ●図表と文章との関係に注意しながら、事実とそれに基づく筆者の考えを読み分ける。 ●オノマトペの意味や効果について、自分の考えをもつ。	5	◆学習目標を確認し、学習の見直しをもつ。 1 「食感のオノマトペ」について、筆者の調査方法と調査結果を表にまとめる。 2 文中のグラフを見て、気づいたことや考えたことを箇条書きで書き出す。 3 「食感のオノマトペ」についての筆者の意見を要約する。 4 この文章において、グラフはどんな効果を果たしているか、本文との関連に注意して、考える。 [学びをひろげよう] 5 2枚の写真から1枚を選んで、それを食べたときのことをオノマトペを使って表現する。 ◆学習目標を再確認し、学びを振り返る。	関 事実と筆者の考えとを読み分けようとしたり、オノマトペの意味や効果について自分の考えをもつたりしている。 読① 図表と文章との関係に注意しながら、事実とそれに基づく筆者の考えを読み分けている。 読② オノマトペの意味や効果について、自分の考えをもっている。 言 事象や行為などを表す多様な語句について理解を深め、文章の中の語彙について関心をもっている。	関 事実と考えを分けることの必要性を実感したり、オノマトペの効果を多面的な観点から理解しようとしたりしている。 読① 図表に表れた事実と文章に表れた筆者の考えを対応させながら読み分けることや、図表の効果を考えることができていく。 読② 他の学習者と交流して、オノマトペの意味や効果についての自分の考えを多面的にしている。 言 オノマトペの役割や、オノマトペについて説明している(言い換えている)語句のはたらきについて理解している。	読① 図表と文章を関係づけることができない。 →84ページの棒グラフを見て気づくことをあげさせ、それに似ていることが文章ではどこに書かれているか、指摘させる。 読② オノマトペの意味や効果について理解できない。 →82ページ(①②段落)を読み、自分にも似た経験がないか、問いかける。 言 オノマトペや、文章中の重要な語句に着目できない。 →はじめて知ったオノマトペを一つあげさせ、それが文章中でどのように説明されているか指摘させる。	Cイ [言語活動] Cイ(文章と図表との関連)
		ことば発見2 話しことばと書きことば【言】 ●話しことばと書きことばについての理解を深める。	1	1 教材文を読み、話しことばと書きことばのそれぞれの特徴を理解する。 2 話しことばにおける、イントネーション・プロミネンス・アクセントについて理解を深める。 3 「確かめよう」の課題に取り組む。	関 話しことばと書きことばに関心をもち、積極的に課題に取り組んでいる。 言 話しことばと書きことばについての理解を深めている。	関 「確かめよう」の課題をとおして、話しことばと書きことばへの関心をさらに深めている。 言 話しことばと書きことばの特徴について、具体的な場面に即して理解している。	言 話しことばと書きことばを使い分けていない。 →話しことばと書きことばの違いがあることを確認させる。	2年伝国イ(ア)

月	単元名	教材名【領域】 ●学習目標	時数	おこな学習活動	評価規準B (おおむね満足できる状況)	評価規準A (十分満足できる状況)	評価規準C(努力を要する状況)とその手だて	学習指導要領 の指導事項・ 言語活動例
		目的や相手に応じて、情報を編集する 行事案内リーフレット【書】 ●目的と相手を明確にして集めた情報を分類・整理して、わかりやすく構成する。 ●文章を読み返し、表記や表現の仕方などを確かめて、相手にとって必要な情報が正しくわかりやすく伝わるものにする。	6	◆学習目標と学習の流れを確認し、学習の見直しをもつ。 1 掲載内容を決める。 ・案内する行事を決める。 ・届ける相手を決める。 ・行事についての情報を集め、リーフレットの掲載内容を考える。 2 構成を考える。 3 推敲して清書する。 →p277資「推敲の仕方と観点」 4 交流して、リーフレット作りを振り返る。 ◆学習目標を再確認し、学びを振り返る。	関 目的や相手に応じて情報を編集して、わかりやすい行事案内リーフレットを作ろうとしている。 書① 目的と相手を明確にして集めた情報を分類・整理して、わかりやすく構成している。 書② 文章を読み返し、表記や表現の仕方などを確かめて、相手にとって必要な情報が正しくわかりやすく伝わるものになっている。 言 事象や行為などを表す多様な語句について理解を深めている。	関 目的を達成するための工夫を自覚的、意図的に行いながら、行事案内リーフレットを楽しんで積極的に作ろうとしている。 書① 目的との関連や相手に与える効果を意識しながら、集めた情報を分類・整理・構成している。 書② 相手にとってのわかりやすさを意識しながら、よりよい文章になるよう、繰り返し推敲している。 言 語句のもつ効果を自覚して、意図的に使用している。	書① 情報を分類・整理することができない。 →集めた情報に見出し(短いタイトル)を付けさせ、共通点を見つけさせる。 書② 文章を読み返さない。 →誤りを含む文章を提示して推敲させたり、誤った情報を発信してしまうことのリスクを説明したりする。 言 語句を適切に使用できない。 →具体的な言い換えの例を提示したり、他の学習者と読み合わせたりする。	Bイ・Bエ [言語活動] Bウ(行事の案内)
		漢字のしくみ2 部首と成り立ち【漢】 ●部首と成り立ちについての理解を深める。	1	1 漢字の部首と成り立ちについて考える。 2 漢和辞典を活用し、「確かめよう」の課題に取り組む。	関 部首と成り立ちに関心をもち、積極的に課題に取り組んでいる。 言 部首と成り立ちについての理解を深めている。	関 「確かめよう」の課題をとおして、部首と成り立ちへの関心をさらに深めている。 言 部首と成り立ちについて、具体的な漢字に即して理解を深めている。	言 漢字の部首や成り立ちの違いに気づいていない。 →漢和辞典を引いて、部首や成り立ちの項目を見つけさせる。	伝国ウ(ア)
		漢字を身につけよう3【漢】 ●漢字の読み書きについての理解を深める。		1 中学校で学習する漢字を読む。 2 中学校で新しく学習する読みを学ぶ。 →p293資「一年生で学ぶ漢字字典」	関 新しく学習する漢字の読み書きについて関心を深め、意欲的に習得しようとしている。 言 新しく学習する漢字の読み書きについて理解を深めている。	関 「漢字を身につけよう」の課題をとおして、新しく学習する漢字の読み書きへの関心をさらに深めている。 言 新しく学習する漢字の読み書きを確実に身につけている。	言 新しく学習する漢字が読めない。 →参考資料「一年生で学ぶ漢字字典」「一年生で学ぶ音訓」から読み方を探させる。	伝国ウ(ア)
10	古典に学ぶ	月を思う心【伝(解説)】 竹取物語【伝(古文)】 古典情報 古典の仮名遣い ●古文の仮名遣いやリズムに注意して音読し、古典の世界にふれる。 ●現代とのつながりを考えて読み、物語のおもしろさについて、自分の意見をもつ。	1	◆学習目標を確認し、学習の見直しをもつ。 1 歴史的仮名遣いや古典のことばに注意して、音読する。 2 主な登場人物の行動と性格をまとめ、それぞれの人物に対する自分の考えを書く。 3 この物語で最も悲しんだのは誰か、その理由とともに考える。 [学びをひろげよう] 4 「月を思う心」「竹取物語」を参考にしながら、昔の人々の「月」への思いに対する自分の意見を200字程度で書く。 ◆学習目標を再確認し、学びを振り返る。	関 音読をとおして古典の世界にふれようとして、物語のおもしろさについて、自分の意見をもとうとしていたりしている。 読 現代とのつながりを考えて読み、物語のおもしろさについて、自分の意見をもっている。 言 古文の仮名遣いやリズムに注意して音読し、古典の世界にふれている。	関 場面の展開や登場人物の描かれ方についての自分の考えを他の学習者と比べて相対化し、それを生かして音読しようとしていたり、物語のおもしろさについての自分の意見を、ことばを工夫して表現しようとしていたりしている。 読 物語の展開や登場人物の描かれ方について、現代と同じ点や異なる点を具体的にあげて比較し、自分の意見を表現している。 言 古文の仮名遣いの読み方やリズムの取り方を意識しながら、物語の展開や登場人物の描かれ方、物語のおもしろさについての自分の考えを音読に生かして、古典の世界にふれている。	読 現代とのつながりについての自分の意見をもてない。 →現代の視点から物語の展開について不思議に思うことをあげさせる。 言 古文の仮名遣いやリズムに注意して音読していない。 →古文の仮名遣いとして発音が異なることばを抜き書きさせたり、文章中のことばの切れめに印をつけさせたりする。	伝国ア(ア)・ 伝国ア(イ) Cエ [言語活動] Cア(音読・朗読)
3		◆学習目標を確認し、学習の見直しをもつ。 1 漢文調のリズムに注意して、「矛盾」の文章を繰り返し音読する。 2 「矛盾」の現在の意味を理解し、その由来をp117の四つの絵に従って説明する。 [学びをひろげよう] 3 A・Bどちらかの課題を選んで取り組む。 A 他の故事成語を調べ、それを使って短い文章を作る。 B 故事成語をテーマにした紙芝居や寸劇などをグループで作成し、発表する。 ◆学習目標を再確認し、学びを振り返る。	関 リズムに注意して音読しようとしていたり、故事成語の由来について理解を深めようとしていたりしている。 読 現代にも受け継がれている故事成語の由来について理解を深めている。 言 訓読の仕方にふれ、漢文調のリズムに注意して音読している。	関 故事成語の由来について、ことばを工夫して表現しようとしている。 読 故事成語の由来についての自分の理解を、他の学習者と比べて、より確かにしている。 言 漢文調のリズムの特徴を意識しながら、それを生かして音読している。	読 現代への継承を意識できない。 →身のまわりで「矛盾」が使われる例を探し、意味や用法が同じ点・異なる点を考えさせる。 言 訓読の仕方や漢文調のリズムを意識できない。 →訓読の仕方や漢文調のリズムの取り方で難しい箇所を線を引き、抜き出させたりして発音させる。	伝国ア(ア) Cア [言語活動] Cア(音読・朗読)		
		漢字を身につけよう4【漢】 ●漢字の読み書きについての理解を深める。		1 中学校で学習する漢字を読む。 2 中学校で新しく学習する読みを学ぶ。 →p295資「一年生で学ぶ漢字字典」	関 新しく学習する漢字の読み書きについて関心を深め、意欲的に習得しようとしている。 言 新しく学習する漢字の読み書きについて理解を深めている。	関 「漢字を身につけよう」の課題をとおして、新しく学習する漢字の読み書きへの関心をさらに深めている。 言 新しく学習する漢字の読み書きを確実に身につけている。	言 新しく学習する漢字が読めない。 →参考資料「一年生で学ぶ漢字字典」「一年生で学ぶ音訓」から読み方を探させる。	伝国ウ(ア)
	④論理的に考える	玄関扉【読(説明)】 読み方を学ぼう④【三角ロジック】主張・事実・理由づけ ●文章に示された事実と筆者の意見と理由を読み分けて、要旨を捉える。 ●玄関扉の例を中心に、文化の違いについて、自分の考えをもつ。	5	◆学習目標を確認し、学習の見直しをもつ。 1 教材文を通読し、初発の感想を交流する。 2 日本と欧米の玄関扉について、表を完成させる。 3 玄関扉のそれぞれの開き方と人々のコミュニケーションについて、筆者がどのように関連づけて述べているかを考える。 4 「三角ロジック」を読み、「主張」「事実」「理由づけ」の関係について理解する。 [学びをひろげよう] 5 A・Bどちらかの課題を選んで取り組む。 A 教材文のサブタイトル(副題)を考える。 B 「玄関扉」と同じような文化の違いを生活の中から見つけ、話し合う。 ◆学習目標を再確認し、学びを振り返る。	関 事実と意見と理由とを読み分けて要旨を捉えようとしていたり、文化の違いについて自分の意見をもとうとしていたりしている。 読① 文章に示された事実と筆者の意見と理由を読み分けて、要旨を捉えている。 読② 玄関扉の例を中心に、文化の違いについて、自分の考えをもっている。 言 事象や行為などを表す多様な語句について理解を深め、文章の中の語彙について関心をもちている。	関 文化の違いが表れた例を積極的に見つけ、解釈しようとしている。 読① 事実と意見の関連を根拠にして、筆者の意見について評価したり、自分の考えをもったりしている。 読② 玄関扉以外の例を見つけて自分の考えをもったり、筆者の意見と比べていたりしている。 言 筆者の意見を伝える語句や表現(文末表現など)に関心をもち、自分の表現に生かそうとしている。	読① 事実と意見を読み分けられず、要旨が捉えられない。 →125ページと128ページの挿絵を対比させて「事実」を確認したうえで、その理由を予想させ、文章に表れた筆者の意見を探し、比べさせる。 読② 玄関扉の例を文化について考えることへ結びつけられない。 →「ヨーロッパ的な考え方」「日本人の態度」「日本の生活習慣」(いずれも127ページ)に着目させ、具体的にはどのようなことか考えさせる。 言 語句の表現効果に着目できていない。 →「『いらっしやいませ。』感覚」(126ページ)や「挨拶距離。」(128ページ)のような筆者独自の表現を例示し、読み手としてのどのような印象を受けるか問いかける。	Cイ・Cオ [言語活動] Cイ(説明の文章)

月	単元名	教材名【領域】 ●学習目標	時数	おもな学習活動	評価規準B (おおむね満足できる状況)	評価規準A (十分満足できる状況)	評価規準C(努力を要する状況)とその手だて	学習指導要領 の指導事項・ 言語活動例
11		ことば発見3 接続する語句・指示する語句【言】 ●接続する語句・指示する語句についての理解を深める。	1	1 接続する語句の種類やはたらき、使い方について理解する。 2 指示する語句の種類やはたらき、使い方について理解する。 3 「確かめよう」の課題に取り組む。	関 接続する語句・指示する語句に関心を持ち、積極的に課題に取り組んでいる。 言 接続する語句・指示する語句についての理解を深めている。	関 「確かめよう」の課題をとおして、接続する語句・指示する語句への関心をさらに深めている。 言 接続する語句・指示する語句のはたらきについて、具体的な文章の中での確に説明している。	言 接続する語句・指示する語句のはたらきに気づいていない。 →「確かめよう」の例文から接続する語句・指示する語句を取り除いた文章を読ませ、違いを考えさせる。	伝国イ(エ)
		論理で迫るか、感情に訴えるか 討論ゲーム【話聞】 ●説得力をもつように、話の構成や討論の展開を工夫して話す。 ●わかりやすく印象に残る語句を選んだり、声の調子や身振りなどに変化をつけたりして、相手に与える効果を考えながら話す。 ●立場や目的にそって効果的に話したり、発言の特徴に注意して聞いたりして、自分の考えをまとめる。	4	◆学習目標と学習の流れを確認し、学習の見直しをもつ。 1 テーマを決めて、チームを編成する。 2 チームごとに討論ゲームの準備をする。 ・「論理で迫る場合」と「感情に訴える場合」の両方での発表の仕方を考える。 3 討論ゲームを行う。 ・オープニング(チーム紹介・主張スタイルの決定) ・第1ラウンド(各チームの主張・質問タイム・作戦タイム) ・第2ラウンド(各チームの主張・質問タイム) ・エンディング(ジャッジ・コメントタイム) 4 ゲームを振り返る。 ◆学習目標を再確認し、学びを振り返る。	関 論理で迫る効果、感情に訴える効果を考えながら、討論ゲームに積極的に取り組んでいる。 話聞① 説得力をもつように、話の構成や討論の展開を工夫して話している。 話聞② わかりやすく印象に残る語句を選んだり、声の調子や身振りなどに変化をつけたりして、相手に与える効果を考えながら話している。 話聞③ 立場や目的にそって効果的に話したり、発言の特徴に注意して聞いたりして、自分の考えをまとめている。 言 指示する語句や接続する語句、比喩や反復などの語句の使い方に注意して話し合っている。	関 論理で迫る効果、感情に訴える効果を自覚し、意図的に活用しながら、討論ゲームに積極的に取り組んでいる。 話聞① 話の構成や討論の展開の効果を意識し、説得力を高めるように意図して話している。 話聞② わかりやすく印象に残る語句を選んだ上で、声の調子や身振りなどに意図的に変化をつけ、相手に与える効果を自覚して話している。 話聞③ 立場や目的に応じた効果を意識して話したり、発言の特徴のもつ効果を意識しながら聞いたりして、自分の考えをまとめている。 言 指示する語句や接続する語句、比喩や反復などの語句のもつ効果を意識して話し合っている。	話聞① 話の構成を工夫することができない。 →「論理で迫るときポイント」「感情に訴えるときポイント」を参考にさせ、どちらかを使わせる。 話聞② 相手に与える効果を意識していない。 →声の調子や身振りに変化をつけさせて、与える印象の違いに気づかせる。 話聞③ 発言の特徴に注意して聞くことができない。 →「論理で迫るときポイント」「感情に訴えるときポイント」を参考にさせ、発言の特徴を探させる。 言 語句の使い方に注意することができない。 →発言の内容から、「～ような」や何度も繰り返す表現をメモさせる。	Aイ・Aウ・Aオ [言語活動] AI(討論)
		表現プラザ① 変わり身の上話【書】 ●なり変わったものの特徴の捉え方や発想のおもしろさ、表現の工夫などについて交流する。	2	◆学習目標を確認し、学習の見直しをもつ。 1 「参考」や「例1」～「例3」を読み、何になり変わるかを決める。 2 なり変わったものの特徴から想像を広げ、そのものの特徴が表れるような、身の上話の内容と形式を考える。 3 身の上話を書く。 4 書いたものを読み合って交流する。 ◆学習目標を再確認し、学びを振り返る。	関 なり変わったものの特徴や雰囲気表現することを楽しみながら、創作活動に積極的に取り組んでいる。 書 なり変わったものの特徴の捉え方や発想のおもしろさ、表現の工夫などについて交流している。 言 事象や行為などを表す多様な語句について理解を深めている。	関 なり変わって表現するおもしろさを自覚しながら、創作活動に積極的に取り組んでいる。 書 他の学習者がなり変わったものの特徴の捉え方や発想のおもしろさ、表現の工夫などの価値や効果を自分のことばで評価して、交流している。 言 事象や行為などを表す多様な語句の効果や自覚し、意図的に使用している。	書 なり変わったものの特徴から表現することができない。 →なり変わったものの特徴の捉え方や発想のおもしろさ、表現の工夫などの価値や効果を自分のことばで評価して、交流している。 言 事象や行為などを表す多様な語句の効果や自覚し、意図的に使用している。	Bオ
		漢字を身につけよう5【漢】 ●漢字の読み書きについての理解を深める。		1 中学校で学習する漢字を読む。 2 中学校で新しく学習する漢字を学ぶ。 →p296資「一年生で学ぶ漢字字典」	関 新しく学習する漢字の読み書きについて関心を深め、意欲的に習得しようとしている。 言 新しく学習する漢字の読み書きについて理解を深めている。	関 「漢字を身につけよう」の課題をとおして、新しく学習する漢字の読み書きへの関心をさらに深めている。 言 新しく学習する漢字の読み書きを確実に身につけている。	言 新しく学習する漢字が読めない。 →参考資料「一年生で学ぶ漢字字典」「一年生で学ぶ音訓」から読み方を探させる。	伝国ウ(ア)
⑤ 読みを深め合う	見えなだけ【読(詩)】 ●詩の中のことばの意味を的確に捉えて、内容を理解する。 ●表現に着目しながら読み、その特徴と効果について自分の意見をもつ。	2	◆学習目標を確認し、学習の見直しをもつ。 1 教材を音読し、教材に対する第一印象を書いて交流する。 2 「見えなだけ」で「確かに在るもの」を詩から探して書き出す。 3 「あんなに確かに在るものが／まだここからは見えなだけ」に表現された作者のものの見方について、考えたことを発表する。 4 表現の特徴や効果について、気づいたことを発表する。 [学びをひろげよう] 5 この詩の形式をまねて、「見えなだけ」で「確かに在るもの」を表現する。 ◆学習目標を再確認し、学びを振り返る。	関 ことばの意味を的確に捉えて内容を理解しようとして、表現の特徴と効果について自分の意見をもとうとしていたりしている。 読① 詩の中のことばの意味を的確に捉えて、内容を理解している。 読② 表現に着目しながら読み、その特徴と効果について自分の意見をもっている。 言① 比喩的・象徴的な語句の使用に着目している。 言② 語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意し、語感を磨いている。	関 表現の効果についての自分の意見を他の学習者と積極的に交流し、さらに深めようとしている。 読① 詩の中のことばがもつ意味の多様性を、詩の解釈と関わらせて理解している。 読② 詩の中のことばがもつ特徴と表現効果を、自分のことばで説明している。 言① 比喩的・象徴的な表現のもつ効果を、自分のことばで説明している。 言② 辞書的な意味と文脈上の意味との異なりを、教材以外の詩や文章、日常生活の場面から見つけようとしている。	読① 詩の中のことばの意味を、内容と関連させて理解できない。 →例えば「だけ」に着目させ、「見えなだけ」に続くことばを考えさせる。 読② 表現の特徴や効果を説明することができない。 →「希望」や「可能性」などの語句がそのまま使われている場合と、受ける印象を比較させる。 言① 比喩的・象徴的な用いられ方をしている語句・表現を指摘できない。 →「空」「海」など一例をあげ、他の学習者の解釈と交流させたり、指導者の解釈を提示したりする。 言② 語句の文脈上の意味が理解できない。 →「蕾」「さし出す」の意味をそれぞれ国語辞典で確認し、詩の文脈に合う解釈と比較させる。	Cア・Cエ [言語活動] Cア(音読・朗読)	
	ことば発見4 比喩・倒置・反復・対句【言】 ●比喩・倒置・反復・対句について理解を深める。	1	1 直喩について、例文をもとに、その効果とあわせて理解する。 2 隠喩と擬人法について理解し、表現効果を考える。 3 倒置・反復・対句のそれぞれを理解し、例文をもとに表現効果を考える。 4 「確かめよう」の課題に取り組む、比喩や倒置・反復・対句が使われている例を身のまわりから探す。	関 比喩・倒置・反復・対句に関心を持ち、積極的に課題に取り組んでいる。 言① 比喩・倒置・反復・対句について理解を深めている。 言② 語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意し、語感を磨いている。	関 「確かめよう」の課題をとおして、比喩や倒置・反復・対句への関心をさらに深めている。 言① 比喩や倒置・反復・対句のはたらきについて、具体的な表現の中での確に説明している。 言② 語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意し、具体的な比喩の表現に即して説明している。	言① 比喩や倒置・反復・対句が使われている例を身のまわりから探させる。 →既習の教材から比喩や倒置・反復・対句が使われている表現を探させる。 言② 語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に気づいていない。 →比喩表現になっていることばを辞書で確かめさせ、文脈上での意味との共通点を見つけさせる。	伝国イ(オ)	

月	単元名	教材名【領域】 ●学習目標	時数	おもな学習活動	評価規準B (おおむね満足できる状況)	評価規準A (十分満足できる状況)	評価規準C(努力を要する状況)とその手だて	学習指導要領 の指導事項・ 言語活動例
12		少年の日の思い出【読(小説)】 読み方を学ぼう⑤【語り手】 語っているのは誰? ●場面展開や人物描写に着目して、登場人物の心情の変化を捉える。 ●作品の構成の工夫を読み取り、その効果について自分の考えをもつ。	6	◆学習目標を確認し、学習の見直しをもつ。 1 教材文を通読する。 2 現在と過去のそれぞれの場面における登場人物を全てあげ、その関係を整理する。 3 「ぼく」は「エーミール」のことをどう思っていたのか、「ぼく」が使っていることばを用いて説明する。 4 「3」でまとめたぼくの言動や心情について、共感するところ、疑問に思うところを発表し合う。 5 「チョウを一つ一つ取り出し、指でこなごなに押し潰してしまった」ときの心情を考える。 6 この話を打ち明けられた「私」は、「客」にどのようなことばを返すか、想像する。 7 終末の感想を書き、交流する。 [学びをひろげよう] 8 この作品を、特に印象に残ったことや注目したい表現などに絞りこんで、30秒間で紹介し合う。 ○同じところに着眼した生徒をグループにして取り組ませる方法もある。「絞りこんだ」ところを選択した理由についても発言させるようにする。 ◆学習目標を再確認し、学びを振り返る。	関 登場人物の心情の変化を捉えようしたり、構成上の効果について自分の考えをもつたりしている。 読① 場面展開や人物描写に着目して、登場人物の心情の変化を捉えている。 読② 作品の構成の工夫を読み取り、その効果について自分の考えをもつている。 言 事象や行為などを表す多様な語句について理解を深めている。	関 作品の構成の効果について、評価しながら読もうとしている。 読① 場面展開と登場人物の心情の変化を関連づけながら、展開の巧みさや描写の効果について考えている。 読② 作品の構成の効果について考えたことを他の学習者と積極的に交流したり、他の作品と比べてたりしている。 言 象徴的な表現のもつ効果について、自分のことばで説明しようとしている。	読① 登場人物の心情の変化を捉える観点がわからない。 →場面分けを確認したり、「ぼく」のエーミールへの見方(学びの道しるべ②)を整理したりする。 読② 作品の構成を、その効果の面から捉えられない。 →現在の場面がないと、読み手(生徒自身)が受ける印象はどのように変わるか、考えさせてみる。 言 語句のもつ象徴的な意味を捉えられない。 →比喩的・象徴的な表現の一つあげ、そこから受ける印象を自由に発言させたり、他の学習者と交流させたりする。	Cウ・Cエ [言語活動] Cウ(引用して紹介)
		文法のまど2 単語の類別・品詞【言】 →文法のまとめ ●単語の類別・品詞について理解する。	2	1 p165上段にあげられている8語を4グループに分けてみる。 2 下段の説明を読み、名詞・動詞・形容詞・形容動詞について、また品詞について理解する。 3 p221-222「文法のまとめ」3 単語の類別・品詞について理解する。 4 p222の「品詞分類表」を用いて、まとめる。	関 単語の類別・品詞に関心を持ち、積極的に課題に取り組んでいる。 言 単語の類別・品詞について理解している。	関 「確認しよう 練習問題2」の課題をとおして、単語の類別・品詞への関心をさらに深めている。 言 単語の類別・品詞の関係について、具体的な文章の中での的確に指摘している。	言 名詞や副詞・接続詞などの違いに気づいていない。 →既習の教材の文章から、名詞や副詞・接続詞などをいくつかあげさせる。	伝国イ(エ)
		多角的な視点で作品を読み解く 鑑賞文【書】 ●想像を広げたり、いろいろな視点で分析したりして、自分の受け止め方や考えを明確にして書く。 ●書いた文章を読み合い、作品の捉え方や根拠の明確さ、表現の仕方などについて意見を交流する。	6	◆学習目標と学習の流れを確認し、学習の見直しをもつ。 1 鑑賞のポイントをつかむ。 2 鑑賞文を書く対象を選ぶ。 3 自分が選んだ絵画などについて、カードや付箋にメモする。 4 同じ絵画などを選んだ生徒でグループになり、印象を交流する。 5 自分のメモ・付箋を見直し、取捨選択して、鑑賞文の構成メモをつくる。 6 鑑賞文を書き、タイトルをつける。 7 鑑賞文を交流する。同じ絵画などを選んだグループ、異なるものを選んだグループなど、構成を変えて複数回交流の機会を設け、感想を伝え合うとともに、多様な見方や受け止め方があることを知る。 ◆学習目標を再確認し、学びを振り返る。	関 多角的な視点で作品を読み解きながら、鑑賞文を書こうとしている。 書① 想像を広げたり、いろいろな視点で分析したりして、自分の受け止め方や考えを明確にして書いている。 書② 書いた文章を読み合い、作品の捉え方や根拠の明確さ、表現の仕方などについて意見を交流している。 言 事象や行為などを表す多様な語句について理解を深めている。	関 多角的な視点で作品を読み解くことの意義やおもしろさを自覚し、鑑賞文に生かそうとしている。 書① 想像を広げたり、いろいろな視点で分析したりすることの意義や価値を自覚し、自分の受け止め方や考えを明確にして、自分のことばで表現している。 書② 書いた文章を読み合い、作品の捉え方や根拠の明確さ、表現の仕方などについての意見交流をふまえて、自分の考えを相対化している。 言 事象や行為などを表す多様な語句を理解し、効果を自覚して活用している。	書① 自分の受け止め方や考えが書けない。 →その作品について、隣の人の印象を聞いてメモさせ、自分の考えと比べさせる。 書② 交流を通じた自分の考えがもてない。 →他の学習者の文章について、印象に残ったことをノートにメモさせる。 言 事象や行為などを表す語句についての理解が浅く、文章中の語が単調である。 →他の学習者の使っている語句から、印象的な語句を指摘させ、その理由を書かせる。	Bウ・Bオ [言語活動] Bア(鑑賞)
		漢字を身につけよう6【漢】 ●漢字の読み書きについての理解を深める。		1 中学校で学習する漢字を読む。 2 中学校で新しく学習する読みを学ぶ。 →p298資「一年生で学ぶ漢字字典」	関 新しく学習する漢字の読み書きについて関心を深め、意欲的に習得しようとしている。 言 新しく学習する漢字の読み書きについて理解を深めている。	関 「漢字を身につけよう」の課題をとおして、新しく学習する漢字の読み書きへの関心をさらに深めている。 言 新しく学習する漢字の読み書きを確実に身につけている。	言 新しく学習する漢字が読めない。 →参考資料「一年生で学ぶ漢字字典」「一年生で学ぶ音訓」から読み方を探させる。	伝国ウ(ア)
1	⑥ 視野を広げる	この小さな地球の上で【読(随想)】 ●文章に出てくる語句の意味について、文脈にそって的確に捉える。 ●地球や人間に対する筆者の考え方を読み取り、自分のもの見方や考え方を広げる。	5	◆学習目標を確認し、学習の見直しをもつ。 1 教材を通読し、感想を交流する。 2 「ナスカ高原」と「イースター島」の事例について、表に整理して比較する。 3 印象に残ったことばや、筆者の思いや考え方が強く感じられることばを選びながら、筆者の考えをまとめる。 4 筆者の考えについて、自分の考えをもつ。 [学びをひろげよう] 5 「次にやるべき大いなる仕事」の具体例を考え、地球や人間の未来について話し合う。 →p268資「話し合いの方法を選ぶ」 ◆学習目標を再確認し、学びを振り返る。	関 語句の意味を文脈にそって的確に捉えようしたり、筆者の考え方を読み取って自分のもの見方や考え方を広げようとしている。 読① 文章に出てくる語句の意味について、文脈にそって的確に捉えている。 読② 地球や人間に対する筆者の考え方を読み取り、自分のもの見方や考え方を広げている。 言 語句の文脈上の意味を確かめながら文章の内容を理解している。	関 筆者の主張を受けとめ、他にあてはまる例を探したり、自分にできることを考えたりしている。 読① 「すばらしい」と「愚かしく悲しむべき」との対比など、語句や表現のもつ効果を評価しながら読んでいる。 読② 筆者の主張にふれることが自分のもの見方を広げる契機になったことを自覚し、他の学習者と積極的に交流したり、他の文章へ読み広げたりしている。 言 「首をかしげる」「喜ばしい」など、筆者の思いを表現する語句に着目し、その効果を考えている。	読① 文脈に沿った語句の意味を捉えることができない。 →「パロディ」「エゴイスティック」など、脚注として意味が提示されている語句の一つあげ、その文章中での意味と脚注の説明とを比べさせる。 読② 筆者の考えを捉えられない。 →冒頭の一文(「人間って……」)あるいは末尾の一文(「次にやるべき大いなる仕事」)に焦点化し、そこに込められた筆者の思いを想像させ、他の学習者と交流させる。 言 文章理解のための重要語句に着目できていない。 →題名の「小さな地球」に着目させ、「地球」に対してもっている生徒自身のイメージと比較させる。	Cア・Cオ [言語活動] Cイ(文章と図表などの関連・説明の文章)
		思いや感覚に向き合い、考えを確かなものに 意見文【書】 ●日常生活の中から課題を決め、問いと対話によって、自分の考えをまとめる。 ●事実や体験から導き出した自分の考えを、根拠を明確にして書く。	5	◆学習目標と学習の流れを確認し、学習の見直しをもつ。 1 体験を問いの形で振り返る。 ・共感や違和感を覚えた体験を思い起こす。 ・対話を通して思いや感覚の理由を掘り起こす。 ・意見を一文か二文で表す。 2 意見文を組み立てる。 ・「体験」「思いや感覚」「事実」「考え」の関係を整理して、意見の根拠が明確になるように組み立てる。 3 意見文のタイトルを考える。 4 意見文を読み合う。 ◆学習目標を再確認し、学びを振り返る。	関 思いや感覚に向き合い、考えを確かなものにして、根拠が明確な意見文を書こうとしている。 書① 日常生活の中から課題を決め、問いと対話によって、自分の考えをまとめている。 書② 事実や体験から導き出した自分の考えを、根拠を明確にして書いている。 言 事象や行為などを表す多様な語句について理解を深めている。	関 思いや感覚と、意見とを、根拠を明確にして結びつけようとしている。 書① 問いと対話の価値や効果を理解し、課題を決めることや、考えをまとめることに活用している。 書② 事実や体験から導き出した自分の考えを、複数の根拠を関連づけて、説得力を高めようとしてながら書いている。 言 事象や行為などを表す多様な語句の効果を理解し、意図的に用いている。	書① 日常生活の中から課題を見いだせない。 →実際の体験とそのとき感じたこと(意見)をノートに簡単に書かせる。 書② 根拠をあげることができない。 →186ページの意見文と組み立ての例を参考に、根拠の一つあげさせる。 言 事象や行為などを表す語句についての理解が浅く、文章中の語が単調である。 →他の学習者の使っている語句から、印象的な語句を指摘させ、その理由を書かせる。	Bア・Bウ

月	単元名	教材名【領域】 ●学習目標	時数	おもな学習活動	評価規準B (おおむね満足できる状況)	評価規準A (十分満足できる状況)	評価規準C(努力を要する状況)とその手だて	学習指導要領 の指導事項・ 言語活動例
2		表現プラザ② 即興劇に チャレンジ 【話聞】 ●声の調子や語句の選択, 言葉づかいなど, 役に応じた表現を工夫する。	2	◆学習目標を確認し, 学習の見通しをもつ。 1 例を参考にして, 架空の場面を設定する。 2 登場人物を決め, 役割を決める。 3 設定に基づいて即興劇を実践する。 4 設定を変えて, 繰り返し即興劇を行う。 ◆学習目標を再確認し, 学びを振り返る。	関 表現の工夫を楽しみながら, 即興劇に積極的に取り組んでいる。 話聞 声の調子や語句の選択, 言葉づかいなど, 役に応じた表現を工夫している。 言 音声のはたらきやしぐみについて関心をもち, 理解を深めている。	関 表現を工夫することで生まれる効果を自覚し, 意図的に用いながら, 即興劇に積極的に取り組んでいる。 話聞 声の調子や語句の選択, 言葉づかいなどの効果を自覚し, 役に応じて活用している。 言 音声のはたらきやしぐみ, その効果的な使い方を自覚し, 積極的に活用している。	話聞 役と表現の工夫がつけられない。 →役のイメージを確認し, 声の調子に絞って工夫を凝らすよう促す。 言 音声のはたらきが意識できない。 →文末を上げたり下げたりさせて, 意味の違いを確認させる。	Aウ
		漢字のしくみ3 漢字の音と訓 【漢】 ●漢字の音と訓についての理解を深める。	1	1 教材文を読み, 漢字の音と訓について理解を深める。 2 同音異字・同訓異字について理解を深める。 3 「確かめよう」の課題に取り組む。	関 漢字の音と訓に関心をもち, 積極的に課題に取り組んでいる。 言 漢字の音と訓などの読み方について理解を深めている。	関 「確かめよう」の課題をとおして, 部首の音と訓への関心をさらに深めている。 言 漢字の音と訓について, 具体的な漢字に即して理解を深めている。	言 漢字の音と訓の違いに気づいていない。 →漢和辞典を引いて, 漢字の音と訓の項目を見つけさせる	伝国イ(ウ) 伝国ウ(ア)
		漢字を身につけよう7 【漢】 ●漢字の読み書きについての理解を深める。		1 中学校で学習する漢字を読む。 2 中学校で新しく学習する読みを学ぶ。 →p299資「一年生で学ぶ漢字字典」	関 新しく学習する漢字の読み書きについて関心を深め, 意欲的に習得しようとしている。 言 新しく学習する漢字の読み書きについて理解を深めている。	関 「漢字を身につけよう」の課題をとおして, 新しく学習する漢字の読み書きへの関心をさらに深めている。 言 新しく学習する漢字の読み書きを確実に身につけている。	言 新しく学習する漢字が読めない。 →参考資料「一年生で学ぶ漢字字典」「一年生で学ぶ音訓」から読み方を探させる。	伝国ウ(ア)
3	つな が り を 考 え る	⑦ トロッコ 【読(小説)】 読み方を学ぼう⑥【情景描写】書かれていない気持ち ●情景や行動の描写に表現されている, 主人公の心情の変化を読み取る。 ●文脈の中のことばの意味を的確に捉え, 表現の工夫や特徴について考えをもつ。	6	◆学習目標を確認し, 学習の見通しをもつ。 1 冒頭の場面から, 作品の設定がわかる表現を書き抜く。 2 場面の展開にそって, 情景や行動を手がかりに主人公の心情の変化について考える。 3 最後の場面について, 「今」と「そのとき」とで, どんなどころが重なるか, 話し合う。 [学びをひろげよう] 4 「少年の日の思い出」と読み比べ, それぞれの作品の特徴や, 共通点・相違点について考える。 ◆学習目標を再確認し, 学びを振り返る。	関 主人公の心情の変化を読み取るうしたり, 表現の工夫や特徴について考えをもとうしたりしている。 読① 情景や行動の描写に表現されている, 主人公の心情の変化を読み取っている。 読② 文脈の中のことばの意味を的確に捉え, 表現の工夫や特徴について考えをもっている。 言 事象や行為などを表す多様な語句について理解を深めている。	関 既習教材や他作品を, 情景描写の観点から捉えようとしている。 読① 主人公の心情の変化を表す情景描写の効果について説明したり, 評価したりしながら読んでいる。 読② 「良平は二十六の年……」でこの小説が終わることや, 「全然なんの理由もないの?」「……………」(末尾)のような表現の意味や効果について考えている。 言 情景や心情を表す多様な語句に注目し, その効果を考えている。	読① 主人公の心情の変化と情景描写を関連づけることができない。 →「学びの道しるべ2」の課題について, 支援しながら取り組ませることによって, 心情の変化を整理したうえで, 情景と関わらせて理解させる。 読② 効果的に用いられている語句や表現に着目できない。 →「読み方を学ぼう⑥ 情景描写」に例示されている「みかん」「海」について教師や他の学習者とともに考えさせる。 言 文脈の中で多様な意味をもつ語句を捉えられない。 →「読み方を学ぼう⑥ 情景描写」の図中の「ことばからイメージされるもの」に着目させ, 一つの語からこのように多くのイメージが生み出されることに気づかせ, 生徒自身のイメージを付け加えさせる。	Cア・Cウ・Cエ [言語活動] Cア(音読・朗読)
		漢字を身につけよう8 【漢】 ●漢字の読み書きについての理解を深める。		1 中学校で学習する漢字を読む。 2 中学校で新しく学習する読みを学ぶ。 →p301資「一年生で学ぶ漢字字典」	関 新しく学習する漢字の読み書きについて関心を深め, 意欲的に習得しようとしている。 言 新しく学習する漢字の読み書きについて理解を深めている。	関 「漢字を身につけよう」の課題をとおして, 新しく学習する漢字の読み書きへの関心をさらに深めている。 言 新しく学習する漢字の読み書きを確実に身につけている。	言 新しく学習する漢字が読めない。 →参考資料「一年生で学ぶ漢字字典」「一年生で学ぶ音訓」から読み方を探させる。	伝国ウ(ア)
		一年間の自分とクラスを振り返って グループ新聞 【話聞/書】 ●取材して集めた情報を, 編集会議によって検討したり整理したりする。 ●文章を読み返し, 表記や表現の仕方などを確かめて, 正しく読みやすいものにする。	7	◆学習目標と学習の流れを確認し, 学習の見通しをもつ。 1 中学校生活を振り返って, 記事にする材料を集める。 2 編集部を編成し, 記事の内容を深める。 →p264資「インタビューをする」/p266資「アンケートをとる」 3 レイアウトに基づき, 記事を書く。 4 記事を推敲し, 紙面を作る。 →p277資「推敲の仕方と観点」 5 新聞を読み合う。 ◆学習目標を再確認し, 学びを振り返る。	関 一年間の自分とクラスを振り返りながら, グループ新聞づくりに積極的に取り組んでいる。 話聞 取材して集めた情報を, 編集会議によって検討したり整理したりしている。 書 文章を読み返し, 表記や表現の仕方などを確かめて, 正しく読みやすいものになっている。 言 事象や行為などを表す多様な語句について理解を深めている。	関 一年間の自分とクラスを振り返ってグループ新聞にまとめることの意義を理解し, 協力しながら自立的に取り組んでいる。 話聞 編集会議の意義を自覚し, 多様な考えを交流して, よりよい結論を求めている。 書 推敲の重要性や意義を理解し, 文章を読み返し, 表記や表現の仕方などを確かめて, 正しく読みやすく, 効果的なものになっている。 言 事象や行為などを表す多様な語句の効果を感じ, 意図的に活用している。	話聞 編集会議で発言できない。 →他の学習者の記事について, 訂正したほうが良い部分を一か所発見し, 指摘させる。 書 推敲の観点がない。 →誤字の発見, 文末の統一, 言い回しの改善などを具体的に提示し, 取り組ませる。 言 事象や行為などを表す語句についての理解が浅く, 文章中の語が単調である。 →他の学習者の記事の中のことばから, 使ってみたいと思うことばを一つ指摘させる。	Aア・Bエ [言語活動] Aイ(対話や討論)・Bイ(図表を用いた説明や記録)
		漢字を身につけよう9 【漢】 ●漢字の読み書きについての理解を深める。		1 中学校で学習する漢字を読む。 2 中学校で新しく学習する読みを学ぶ。 →p301資「一年生で学ぶ漢字字典」/p303資「都道府県名の一覧」	関 新しく学習する漢字の読み書きについて関心を深め, 意欲的に習得しようとしている。 言 新しく学習する漢字の読み書きについて理解を深めている。	関 「漢字を身につけよう」の課題をとおして, 新しく学習する漢字の読み書きへの関心をさらに深めている。 言 新しく学習する漢字の読み書きを確実に身につけている。	言 新しく学習する漢字が読めない。 →参考資料「一年生で学ぶ漢字字典」「一年生で学ぶ音訓」から読み方を探させる。	伝国ウ(ア)
		歌のことば 風が吹いている						

月	単元名	教材名【領域】 ●学習目標	時数	おもな学習活動	評価規準B (おおむね満足できる状況)	評価規準A (十分満足できる状況)	評価規準C(努力を要する状況)とその手だて	学習指導要領の指導事項・言語活動例
4	学びの扉をひらく	名づけられた葉【読(詩)】 読み方を学ぼう①【詩の構成】気持ちを揺さぶる仕掛け ●リズムを感じ取りながら繰り返し音読して、詩に込められた思いを捉える。	2	◆学習目標を確認し、学習の見通しをもつ。 1 繰り返し使われていることばを意識しながら音読する。 2 比喩的な表現について、どんなことをたとえているのか考える。 3 詩の構成に着目して、詩に込められた思いを捉える。 [学びをひろげよう] 4 自分の好きな詩を持ち寄って紹介し合う。 ◆学習目標を再確認し、学びを振り返る。	関 繰り返し音読して詩に込められた思いを捉えようとしている。 読 リズムを感じ取りながら繰り返し音読して、詩に込められた思いを捉えている。 言 多義的な意味を表す語句などについて理解し、語感を磨き語彙を豊かにしている。	関 多様な音読の方法を工夫して、他の学習者と積極的に交流しようとしている。 読 詩のリズムのよさや込められた思いを自分のことばで表現し、他の学習者と積極的に交流している。 言 「葉」以外のことばを用いて、詩に込められた思いを表現している。	読 詩に込められた思いを捉える視点がわからない。 →「考えなければならない」に着目させ、具体的な表現(「葉脈の走らせ方」など)を指定し、その意味するところについて、他の学習者と交流しながら考えさせる。 言 多義的な意味を表す語句に着目できない。 →題名に着目させ、「葉」を視点にして、他の学習者と交流しながら考えさせる。	Cウ [言語活動] Cア(感想の交流)
		小さな手袋【読(小説)】 読み方を学ぼう②【象徴】そこには何かが詰まっている ●登場人物の会話や行動から、心情の変化を読み取る。 ●登場人物どうしの交流をとおして、人と人との触れ合いについて自分の考えをもつ。	5	◆学習目標を確認し、学習の見通しをもつ。 1 本文を通読し、設定を捉える。 2 登場人物の関係を整理する。 3 展開にそって登場人物の心情の変化を捉える。 4 象徴的な事柄をとおして、人と人との触れ合いについて自分の考えをもつ。 [学びをひろげよう] 5 シホが「雑木林に行かなくなった」場面についての青山さん・秋本さんの意見に対して、その理由を推理する。 ◆学習目標を再確認し、学びを振り返る。	関 登場人物の心情の変化を読み取ったり、人と人との触れ合いについて自分の考えをもつたりしている。 読① 登場人物の会話や行動から、心情の変化を読み取っている。 読② 登場人物どうしの交流の読み取りをとおして、人と人との触れ合いについて自分の考えをもっている。 言 多義的な意味を表す語句などについて理解し、語感を磨き語彙を豊かにしている。	関 作品のよさを評価し、他の学習者と積極的に交流しようとしている。 読① 私(シホの父親)の視点から語られていることの効果を、自分のことばで説明している。 読② シホとおばあさんの、出会いとすれ違いを比較しながら、人と人との触れ合いについて、多様な見方をしている。 言 題名に着目し、用いられている語句の効果を、自分のことばで説明している。	読① 登場人物の心情の変化を捉える視点がわからない。 →時間の経過(場面)に沿って登場人物とその関係を整理する。(学びの道しるべ1) 読② 「人と人との触れ合い」という視点がもてない。 →交流によって他の学習者の解釈にふれさせ、「人と人との触れ合い」が本作品の重要な視点になることに気づかせる。 言 多義的な意味を表す語句に着目できない。 →一例として「列車に乗らなければならない日」(23ページ)のような語句を提示し、その意味について、交流をとおして考えさせる。	Cイ・Cエ [言語活動] Cア(感想の交流)
		ことば発見1 類義語・対義語、多義語【言】 ●類義語・対義語、多義語についての理解を深める。	1	1 類義語・対義語、多義語について考える。 →p275資「辞典を活用する」	関 類義語・対義語、多義語に関心を持ち、積極的に学習に取り組んでいる。 言 類義語・対義語、多義語についての理解を深めている。	関 辞典の活用をとおして、類義語・対義語、多義語への関心をさらに深めている。 言 類義語・対義語、多義語について、辞典の中の具体的な項目に即してさらに理解を深めている。	言 類義語・対義語、多義語が見つけれない。 →国語辞典で類義語・対義語の記述や、多義語の構成を確認させる。	伝国イ(イ)
		漢字を身につけよう1【漢】 ●漢字の読み書きについての理解を深める。		1 中学校で学習する漢字を読む。 2 中学校で新しく学習する読みを学ぶ。 →p293資「二年生で学ぶ漢字字典」 ※「漢字を身につけよう」は、年間をとおして計7時間を配当している。	関 新しく学習する漢字の読み書きについて関心を深め、意欲的に習得しようとしている。 言 新しく学習する漢字の読み書きについて理解を深めている。	関 「漢字を身につけよう」の課題をとおして、新しく学習する漢字の読み書きへの関心をさらに深めている。 言 新しく学習する漢字の読み書きを確実に身につけている。	言 新しく学習する漢字が読めない。 →参考資料「二年生で学ぶ漢字字典」「二年生で学ぶ音訓」から読み方を探させる。	伝国ウ(ア)
5	①情報を読み解く	人間は他の星に住むことができるのか【読(説明)】 読み方を学ぼう③【段落の大中小】まとまりを探せ! ●文章の全体と部分との関係に着目して読み、内容を理解する。 ●文章の構成について、根拠を明確にして自分の考えをまとめる。	5	◆学習目標を確認し、学習の見通しをもつ。 1 人間が他の星に移り住むために欠かせない条件について、文章中のことばを抜き出す。 2 それぞれの星について、人間が移り住めるかどうかについての筆者の判断と根拠をまとめる。 3 筆者が、自分の考えをわかりやすく伝えるためにどのような工夫をしているかについて、自分の意見をまとめる。 [学びをひろげよう] 4 教材文の論理の展開の仕方を利用して、A・Bいずれかのテーマで文章を書く。 A 「ペットを飼うなら何がよいか」 B 「スポーツ大会の種目は何がよいか」 ◆学習目標を再確認し、学びを振り返る。	関 全体と部分の関係に着目して文章の内容を理解しようとしていたり、構成について自分の考えをまとめようとしていたりしている。 読① 文章の全体と部分との関係に着目して読み、内容を理解している。 読② 文章の構成について、根拠を明確にして自分の考えをまとめている。 言 抽象的な概念を表す語句などについて理解し、語感を磨き語彙を豊かにしている。	関 構成がその文章のわかりやすさにとって重要なものであることに気づき、自分の表現に活用しようとしている。 読① 自分でまとめた要旨について、全体と部分の関係に言及しながら説明している。 読② 文章構成について評価し、そのよさを自分のことばで説明している。 言 抽象的な概念を表す語句のもつ語感を説明したり、接続表現の機能について文章構成と関連づけながら考えたりしている。	読① 文章の全体と部分の関係に着目できない。 →「読み方を学ぼう③」段落の大中小の学習をふまえて、下の図(41ページ)と本文の具体的な場所とを対応させる。 読② 文章の構成についての自分の考えがもてない。 →「読①」に提示した方法に加えて、形式段落冒頭の接続表現に着目させることによって、「わかりやすさ」と「構成」の関連について考えるきっかけをもたせる。 言 抽象的な概念を表す語句が理解できない。 →「奇跡」などの語を具体的に例示し、それに即して、他の学習者との交流も活用しながら、語句理解の手順を確認する。	Cイ・Cウ [言語活動] Cイ(自分の考えを述べる)

月	単元名	教材名【領域】 ●学習目標	時数	おもな学習活動	評価規準B (おおむね満足できる状況)	評価規準A (十分満足できる状況)	評価規準C(努力を要する状況)とその手だて	学習指導要領 の指導事項・ 言語活動例
6		資料や機器を効果的に活用する プレゼンテーション【話聞】 ●話し手の意図や話の内容をわかりやすく伝えるために、資料や機器を効果的に活用して話す。 ●異なる立場や考えを想定して自分の考えをまとめ、構成を工夫して説得力のある発表をする。	5	◆学習目標と学習の流れを確認し、学習の見通しをもつ。 1 テーマを探す。 2 多角的な視点で、提案内容を考える。 3 提案を支える情報を収集する。 →p270資「インタビューをする」/p271資「アンケートをとる」/p274資「図表(表やグラフ)を使う」 4 効果的な伝え方を考える。 5 プレゼンテーションをする。 ◆学習目標を再確認し、学びを振り返る。	関 資料や機器を効果的に活用することを意識して、プレゼンテーションに積極的に取り組んでいる。 話聞① 話し手の意図や話の内容をわかりやすく伝えるために、資料や機器を効果的に活用して話している。 話聞② 異なる立場や考えを想定して自分の考えをまとめ、構成を工夫して説得力のある発表をしている。 言 相手や目的に応じて、話の形態や展開に違いがあることを理解している。	関 資料や機器のもつ効果を実感し、意図的に活用しながら、プレゼンテーションに積極的に取り組んでいる。 話聞① 話し手の意図や話の内容をわかりやすく伝えるための効果を自覚し、資料や機器を意図的に活用している。 話聞② 自分の発表の説得力を他の学習者に評価してもらい、よりよいものへ改善している。 言 相手や目的に応じて、話の形態や展開を選択したり使い分けたりしている。	話聞① 資料や機器の活用の仕方がわからない。 →同一テーマで異なる資料や機器を用いているプレゼンテーションを視聴させる。 話聞② 説得力を意識することができない。 →構成の異なるプレゼンテーションを視聴させ、受ける印象を比較させる。 言 相手や目的に応じて、話の形態や展開に違いがあることが意識できない。 →正反対の立場に向かって話す場面での話の展開を想定・比較させる。	AI・Aウ伝 国イ(オ) [言語活動] Aア(説明・発表)
		漢字のしくみ1 熟語の構成・熟字訓【漢】 ●熟語の構成・熟字訓についての理解を深める。	1	1 熟語の構成・熟字訓について考える。 →p323資「常用漢字表付表」 2 「確かめよう」の課題に取り組む。	関 熟語の構成・熟字訓に関心をもち、積極的に課題に取り組んでいる。 言 熟語の構成・熟字訓についての理解を深めている。	関 「確かめよう」の課題をとおして、熟語の構成や熟字訓への関心をさらに深めている。 言 熟語の構成や熟字訓についての理解をさらに深めている。	言 熟語の構成の違いに気づいていない。 →教科書の語例について、例示のように意味の関係を図示をさせ、違いを確かめさせる。	伝国ウ(ア)
		漢字を身につけよう2【漢】 ●漢字の読み書きについての理解を深める。		1 中学校で学習する漢字を読む。 2 中学校で新しく学習する特別な読み方をする漢字を学ぶ。 →p294資「二年生で学ぶ漢字字典」	関 新しく学習する漢字の読み書きについて関心を深め、意欲的に習得しようとしている。 言 新しく学習する漢字の読み書きについて理解を深めている。	関 「漢字を身につけよう」の課題をとおして、新しく学習する漢字の読み書きへの関心をさらに深めている。 言 新しく学習する漢字の読み書きを確実に身につけている。	言 新しく学習する漢字が読めない。 →参考資料「二年生で学ぶ漢字字典」「二年生で学ぶ音訓」から読み方を探させる。	伝国ウ(ア)
6	② ことばを磨く	短歌の世界／短歌十首【読(短歌)】 ●短歌のリズムや表現方法などの特徴を理解して、作品の内容を捉える。 ●情景や心情を表す語句に注意して、短歌の世界を読み味わう。	4	◆学習目標を確認し、学習の見通しをもつ。 1 「短歌の世界」を読み、短歌の特徴を書き出す。 2 情景を想像しながら短歌を音読する。 3 「短歌十首」の中から印象に残った短歌を選び、読み込まれた情景や心情についてまとめる。 4 印象に残った理由や表現の工夫、その効果や短歌の魅力について自分の考えを書く。 [学びをひろげよう] 5 短歌の合評会を開いて、考えを交流する。 ◆学習目標を再確認し、学びを振り返る。	関 リズムや表現の特徴を理解して内容を捉えようとしていたり、短歌の世界を読み味わおうとしていたりしている。 読① 短歌のリズムや表現方法などの特徴を理解して、作品の内容を捉えている。 読② 情景や心情を表す語句に注意して、短歌の世界を読み味わっている。 言 多義的な意味を表す語句などについて理解し、語感を磨き語彙を豊かにしている。	関 短歌の感想や解釈を説明する際に、リズムや特徴的な表現を、観点として活用しようとしている。 読① 短歌のリズムや表現方法の特徴やよさを評価して、自分のことばで説明している。 読② 情景や心情を表す語句の効果や評価して、自分のことばで説明している。 言 語句の多義性に注目して短歌を味わい、他の学習者と交流している。	読① 短歌のリズムや表現方法の特徴が理解できない。 →「短歌の世界」53ページの1～3行目をふまえ、二首の短歌を音読させる。 読② 情景や心情を表す語句に着目できない。 →「短歌の世界」の「観覧車……」の歌についての筆者の解釈が、どの語句を起点にして形成されたものか、考えさせる。 言 短歌に用いられる語句の多義性を理解できない。 →「短歌の世界」の「『寒いね』と……」の歌における「あたたかさ」について実際に解釈させ、筆者の解釈と比べることにより、語句の多義性を実感させる。	Cア・Cウ [言語活動] Cア(感想の交流)
		読みたいくなるしくみを工夫する 創作文【書】 ●作品の魅力や特徴が効果的に伝わるように、描写や展開などを工夫して書く。 ●作品を読み合い、表現の工夫やもとの作品の生かし方などについて意見を交流し、自分の考えを広げる。	7	◆学習目標と学習の流れを確認し、学習の見通しをもつ。 1 創作コースを選ぶ。 2 作品を研究する。 3 創作する。 4 作品を発表する。 ◆学習目標を再確認し、学びを振り返る。	関 描写や展開の仕方など、読みたいくなるしくみの意義や効果を自覚し、意図的に活用して創作文を書こうとしている。 書① 作品の魅力や特徴が効果的に伝わるように、描写や展開などを工夫して書いている。 書② 作品を読み合い、表現の工夫やもとの作品の生かし方などについて意見を交流し、自分の考えを広げている。 言 相手や目的に応じて、文章の形態や展開に違いがあることを理解している。	関 描写や展開の仕方など、読みたいくなるしくみの意義や効果を自覚し、意図的に活用して創作文を書こうとしている。 書① 描写や展開を工夫することが、作品の魅力や特徴を効果的に高めることを理解し、そのことを自分の作品に即して具体的に説明している。 書② 積極的に意見を交流し、自分の作品をさらに改善している。 言 相手や目的に応じて、話の形態や展開を選択したり、使い分けたりしている。	書① 描写や展開などの工夫のイメージがもてない。 →「作品例」の中から最も引かれた作品を選ばせ、その理由をノートに書かせる。 書② 表現の工夫やもとの作品の生かし方などについて、自分の考えが持てない。 →「作品例」から、工夫されているところを一つ発見し、ノートに書かせる。 言 相手や目的に応じて、話の形態や展開に違いがあることが理解できない。 →「作品例」から、もとの話と比べて形態や展開の違いを発見させ、ノートに書かせる。	Bウ・Bオ [言語活動] Bア(物語を書く)
7		文法のまど1 用言の活用【言】 ●用言の活用についての理解を深める。	2	1 「歩く」の活用形の違いについて考える。 2 用言の活用について理解する。 3 p224-227「文法のまとめ」1「用言の活用」について理解する。 4 p227の「確認しよう」を用いて、学習したことを確かめる。	関 用言の活用について関心をもち、積極的に課題に取り組んでいる。 言 用言の活用についての理解を深めている。	関 「確認しよう 練習問題1」の課題をとおして、用言の活用への関心をさらに深めている。 言 用言の活用について、具体的な単語に即して的確に理解している。	言 用言の活用表がまとめられない。 →次に続くことばをつけて口頭で暗唱させてから、表に書き入れさせる。	伝国イ(エ)
		漢字を身につけよう3【漢】 ●漢字の読み書きについての理解を深める。		1 中学校で学習する漢字を読む。 2 中学校で新しく学習する漢字を学ぶ。 →p296資「二年生で学ぶ漢字字典」	関 新しく学習する漢字の読み書きについて関心を深め、意欲的に習得しようとしている。 言 新しく学習する漢字の読み書きについて理解を深めている。	関 「漢字を身につけよう」の課題をとおして、新しく学習する漢字の読み書きへの関心をさらに深めている。 言 新しく学習する漢字の読み書きを確実に身につけている。	言 新しく学習する漢字が読めない。 →参考資料「二年生で学ぶ漢字字典」「二年生で学ぶ音訓」から読み方を探させる。	伝国ウ(ア)

月	単元名	教材名【領域】 ●学習目標	時数	おもな学習活動	評価規準B (おおむね満足できる状況)	評価規準A (十分満足できる状況)	評価規準C(努力を要する状況)とその手だて	学習指導要領の指導事項・言語活動例
		見えないチカラとキセキ【読書(講演録)】 読書活動 本の帯・ポップづくり ●選んだ本から適切な情報を得て、自分の考えをまとめる。	2	1 教材文を通読する。 2 図書館などを利用して、共生やスポーツをテーマとした本を選び、その魅力を紹介する。 →p240資「小さな図書館」	関 講演録を読むことを契機として本を選んで読み、自分の考えをまとめて紹介しようとしている。 読 選んだ本から適切な情報を得て、自分の考えをまとめている。 言 相手や目的に応じて、文章の形態や展開に違いがあることを理解している。	関 講演録を読むことをとおして、多様な表現形態があることを知り、形態の面にも着目して読書の幅を広げようとしている。 読 目的や伝えたい内容を明確にもち、そのことを意識しながら情報を取捨選択している。 言 相手や目的を意識しながら、自分の表現を繰り返し見直し、より適切なものにあらためている。	読 本から適切な情報を選ぶことができない。 →本から得られた情報を箇条書きで列挙し、自分の伝えたいことや相手が求めていることを意識しながら選べる(絞らせる)。 言 相手や目的による表現の違いが意識できない。 →「見えないチカラとキセキ」の音読を、講演の聴衆の立場をイメージしながら聞き、どのような印象をもったか、考えるように指示する。	Cオ [言語活動] Cウ(調べて得た情報を比較)
9	③視野を広げる	壁に残された伝言【読(報告)】 ●発見された事実について内容を読み取り、取材した筆者の思いを捉える。 ●「伝言」という表現に着目して、筆者のものの見方や考え方を捉え、自分の考えをもつ。	5	◆学習目標を確認し、学習の見通しをもつ。 1 「伝言」が「発見された経緯」と「白黒逆転して現れた事情」について、時間の流れにそって整理する。 2 「伝言の『あの日』が伝わっていく無限の連鎖は、今も続いている。」に込められた筆者の思いについて話し合う。 [学びをひろげよう] A・Bどちらかの課題に取り組む。 A グループでテーマを決め、ルポルタージュ(現地報告)の本を探して紹介し合う。 B 「手書きの伝言」と「インターネットによるメッセージの交換」とを比べて、考えたことを200字程度の文章にまとめる。 ◆学習目標を再確認し、学びを振り返る。	関 内容を読み取って筆者の思いを捉えようとしたり、筆者のものの見方や考え方を捉えて自分の考えをもとめたりしている。 読① 発見された事実について内容を読み取り、取材した筆者の思いを捉えている。 読② 「伝言」という表現に着目して、筆者のものの見方や考え方を捉え、自分の考えをもっている。 言 抽象的な概念を表す語句などについて理解し、語感を磨き語彙を豊かにしている。	関 筆者のものの見方と自分の考えの広がりとの関わりを自覚し、異なる立場や考えを積極的に知ろうとしている。 読① 発見された事実と筆者の思いとの関わりを捉え、筆者の実感をより深く捉えている。 読② 「伝言」についての学習をとおして、端的な語句を観点として内容を読み取る方法を理解している。 言 抽象的な概念を表す語句に着目して読みを深めたり、自分の表現に活用したりしている。	読① 内容や筆者の思いを捉えることができない。 →小見出しをより詳しく言い換えさせたり、時間の流れに沿って内容を整理させたり(学びの道しるべ1)する。 読② 「伝言」のもつ意味と筆者の考え方を結びつけることができない。 →「被爆の伝言」(かぎ括弧付きで表記されている)と伝言との、意味の共通点と相違点を考えさせる。 言 抽象的な概念を表す語句の解釈ができない。 →伝言の語義を国語辞典で確認したうえで、83ページで「遺産」「証人」と言い換えられていることに着目させる。	Cエ [言語活動] Cイ(自分の考えを述べる)
		漢字のしくみ2 熟語の読み【漢】 ●熟語の読みについての理解を深める。	1	1 「重箱読み・湯桶読み」「同音異義語」など、熟語の読みについて考える。 2 「確かめよう」の課題に取り組む。	関 熟語の読みに関心をもち、積極的に課題に取り組んでいる。 言 熟語の読みについての理解を深めている。	関 「確かめよう」の課題をとおして、漢字の読みへの関心をさらに深めている。 言 漢字の読みについて、具体的なことばに即してさらに理解を深めている。	言 同音異義語の意味の違いに気づいていない。 →例に挙げられている熟語を漢和辞典で引いて、使い方の違いを確認させる。	伝国イ(イ)
		推論と対話で考えを広げる主張文【書】 ●自分の立場や考えとともに、それを支える事実や事柄を明らかにして、文章の構成を工夫する。 ●書いた文章を読み合い、互いの主張や表現の仕方について意見を交流して、自分の考えを広げる。	7	◆学習目標と学習の流れを確認し、学習の見通しをもつ。 1 課題文を読み、それぞれの人の行動の理由を推論する。 2 対話によって、考えを広げる。 3 「災害時における行動」について、主張文を書く。 4 主張文を読み合う。 ◆学習目標を再確認し、学びを振り返る。	関 推論と対話で考えを広げながら主張文を書こうとしている。 書① 自分の立場や考えとともに、それを支える事実や事柄を明らかにして、文章の構成を工夫している。 書② 書いた文章を読み合い、互いの主張や表現の仕方について意見を交流して、自分の考えを広げている。 言 相手や目的に応じて、文章の形態や展開に違いがあることを理解している。	関 推論と対話の意義を理解し、積極的に活用しながら主張文を書こうとしている。 書① 主張と根拠の効果的な関係を自覚し、明確な意図をもって文章構成を工夫している。 書② 積極的に意見を交流して、自分の意見を相対化したり、推敲を繰り返したりしている。 言 相手や目的に応じて、話の形態や展開を選択したり、使い分けたりしている。	書① 文章の構成を工夫する観点がわからない。 →自分の立場や考えを支える事実や事柄を一つ取り上げさせる。 書② 交流を通じた、自分の考えがもてない。 →他の学習者の主張文について感じたことをノートに書かせる。 言 相手や目的に応じて、文章の形態や展開の違いに気づけない。 →他の学習者二人の主張文を比べ、文章の形態や展開の違いをノートに書かせる。	Bイ・Bオ [言語活動] Bイ(意見を述べる文章)
		漢字を身につけよう4【漢】 ●漢字の読み書きについての理解を深める。		1 中学校で学習する漢字を読む。 2 中学校で新しく学習する読みを学ぶ。 →p298資「二年生で学ぶ漢字字典」	関 新しく学習する漢字の読み書きについて関心を深め、意欲的に習得しようとしている。 言 新しく学習する漢字の読み書きについて理解を深めている。	関 「漢字を身につけよう」の課題をとおして、新しく学習する漢字の読み書きへの関心をさらに深めている。 言 新しく学習する漢字の読み書きを確実に身につけている。	言 新しく学習する漢字が読めない。 →参考資料「二年生で学ぶ漢字字典」「二年生で学ぶ音訓」から読み方を探させる。	伝国ウ(ア)
10	古典に学ぶ	枕草子・徒然草【伝(古文)】 ●自然や人間に対する、筆者のものの見方や感じ方を捉える。 ●古人の心情を現代の自分たちとの対比の中で読み取る。	4	◆学習目標を確認し、学習の見通しをもつ。 1 意味の切れめに注意して繰り返し音読し、暗唱する。 2 「枕草子」について、筆者が「をかし」と評価しているものを整理し、それぞれの季節に対して筆者がどのように感じているか考える。 3 自分にとっての「をかし」を加えながら、「枕草子」のなかの、どの季節にいちばん共感できるか考える。 4 「徒然草」で、筆者はどのようなできごとを受けて、「少しのことに先達はあらまほしきことなり。」と言っているのか考える。 5 「仁和寺にある法師」と似たような経験や事柄を考えて発表し合う。 ◆学習目標を再確認し、学びを振り返る。 →p256資「枕草子」 →p258資「徒然草」	関 筆者のものの見方や感じ方を捉えようとしたり、古人の心情を自分たちとの対比の中で読み取ろうとしたりしている。 読① 自然や人間に対する、筆者のものの見方や感じ方を捉えている。 読② 古人の心情を現代の自分たちとの対比の中で読み取っている。 言 文章に表れたものの見方や考え方に触れ、筆者の思いを想像している。	関① 筆者のものの見方や感じ方、古人の心情と自分たちの心情との対比についての自分の考えを、他の学習者と交流して多様化・相対化しようとしたり、自分なりにことばを工夫して表現しようとしたりしている。 読① 自然や人間に対する筆者のものの見方や感じ方についての自分の考えを、他の学習者と比べて相対化したり、別の視点から見直したりしている。 読② 自然や人間に対するものの見方や感じ方について、「枕草子」と「徒然草」を比べて相対化したり、関係づけたりしながら読んでいる。 言 文章に表れたものの見方や考え方を「をかし」「あはれなり」「うつくし」などのことばをふまえて理解している。	読① 筆者のものの見方や感じ方を捉えられない。 →筆者の見方や考え方が表れている部分を抜き出させて整理させる。 読② 自然や人間に対する筆者のものの見方や感じ方、古人の心情を自分たちと比較して読んでいない。 →「枕草子」にあがっている事柄や「徒然草」で描かれている人物の行動から、自分では意外に思うことを取り上げさせ、感想を問う。 言 文章に表れたものの見方や考え方が捉えられない。 →「をかし」「あはれなり」「うつくし」の意味の現代との違いを問うたり、「少しのことに、先達はあらまほしきことなり。」「懈怠の心、みづからは知らずといえども、師これを知る。」の意味を問うたりする。	Cエ 伝国ア(イ) [言語活動] Cア(感想の交流)

月	単元名	教材名【領域】 ●学習目標	時数	おもな学習活動	評価規準B (おおむね満足できる状況)	評価規準A (十分満足できる状況)	評価規準C(努力を要する状況)とその手だて	学習指導要領の指導事項・言語活動例
		表現プラザ①「超訳」に挑戦【書】 ●書きぶりや形式を工夫して、イメージや特徴が効果的に伝わるように書く。	3	◆学習目標を確認し、学習の見通しをもつ。 1 「超訳」の対象となる古典作品を選ぶ。 2 イメージや特徴が伝わるように「超訳」に挑戦する。 3 書いた作品を読み合っ、表現の工夫について感想を交流する。 ◆学習目標を再確認し、学びを振り返る。	関 古典の世界を自分なりに表現することを楽しみながら、創作活動に積極的に取り組んでいる。 書 書きぶりや形式を工夫して、イメージや特徴が効果的に伝わるように書いている。 言 目的に応じて文章の形態や展開に違いがあることを理解している。	関 表現内容や方法を工夫して、古典の世界から感じたことを自分なりに表現しようとしている。 書 書きぶりや形式を意図的に工夫して、イメージや特徴を効果的に伝えている。 言 目的に応じて文章の形態や展開を工夫しながら書いている。	書 書きぶりや形式を工夫できない。 →他の学習者の例を参考にし、表現の方法面・形式面を先に決めさせてから、内容について考えさせる。 言 目的に応じて文章の形態や展開の違いが理解できない。 →さまざまな形態の「超訳」の例を示し、それらの違いについて、気づいたことを表現させる。	Bウ
		平家物語【伝(古文)】 読み方を学ぼう④【物語の転換点】予想外の曲がり角 ●仮名遣いや語句の意味に注意しながら朗読し、古典のリズムを味わう。 ●場面や状況を捉え、登場人物の考え方について、自分の考えをもつ。	5	◆学習目標を確認し、学習の見通しをもつ。 1 人物の様子を思い描きながら古文を朗読する。 2 熊谷次郎直実の行動や心情について、次の観点からまとめて話し合う。 ・「あれは大将軍とこそ見まらせ候へ。」と、大將軍(敦盛)を見つけたときの気持ち。 ・「あはれ、助けたてまつらばや。」と思った理由。 ・「土肥・梶原五十騎ばかりで続いたり」を見たときの気持ち。 [学びをひろげよう] 3 「冒頭(祇園精舎)」と「敦盛の最期」とに描かれている、ものの見方・考え方に共通するのはどのようなことか、考えたことを文章にまとめる。 ◆学習目標を再確認し、学びを振り返る。	関 朗読して古典のリズムを味わおうしたり、登場人物の考え方について自分の考えをもつたりしている。 読① 仮名遣いや語句の意味に注意しながら朗読し、古典のリズムを味わっている。 読② 場面や状況を捉え、登場人物の考え方について、自分の考えをもっている。 言 物語に表れたものの見方や考え方に触れ、登場人物の思いを想像している。	関① 登場人物の考え方についての自分の考えを、他の学習者と比べて相対化しようとしている。 関② 他の学習者の朗読と比べて自分なりの工夫をしながら、古典のリズムを味わい朗読しようとしている。 読① 仮名遣いや語句の意味を考えて朗読に生かし、古典のリズムを味わっている。 読② 登場人物の考え方についての自分の考えを、他の学習者と比べて相対化したり、別の視点から見直したりしている。 言 冒頭(祇園精舎)で表現されていることばを、物語に沿って理解している。	読① 仮名遣いや語句の意味、古典のリズムを意識できない。 →歴史的仮名遣いや注意する語句に留意点を書き込ませたり、切って読むべきところに印を付けさせる。 読② 登場人物の考え方について、自分の考えをもてない。 →「逃げずに引き返した時の敦盛の気持ち」「敦盛を助けようと思った時の直実の気持ち」「直実の助けを拒否したときの敦盛の気持ち」「出家を決意したときの直実の気持ち」について感想を問う。 言 文章に表れたものの見方や考え方から作者の思いを想像していない。 →「おごれる者も久しからず」の意味を、「敦盛の最期」に関連づけたらどう考えられるかを問う。	Cイ 伝国ア(ア) 伝国ア(イ) [言語活動] Cア(感想の交流)
		漢詩の世界【伝(漢文)】 古典情報 漢詩の形式 ●漢詩独特の言葉づかいや調子を捉えて、漢詩の世界を読み味わう。 ●漢詩に描かれた情景を想像し、古人の心情を捉える。	4	◆学習目標を確認し、学習の見通しをもつ。 1 語句の意味や詩の構成などに注意して朗読し、漢詩のリズムを捉える。 2 三編の漢詩について、それぞれ次のことを考える。 ・作者はどこにいて、何をしているか。 ・そのときの作者の心情はどのようなものか。 [学びをひろげよう] 3 三編の漢詩の中から、自然を表す表現を抜き出して、それぞれどのような効果をあげているか話し合う。 ◆学習目標を再確認し、学びを振り返る。	関 作品の特徴を捉えて漢詩の世界を読み味わおうしたり、情景を想像して古人の心情を捉えようしたりしている。 読① 漢詩独特の言葉づかいや調子を捉えて、漢詩の世界を読み味わっている。 読② 漢詩に描かれた情景を想像し、古人の心情を捉えている。 言 作品の特徴を生かして朗読し、古典の世界を楽しんでいる。	関 作品に描かれた情景や作者の心情についての自分の考えを、他の学習者と比べて相対化しようしたり、朗読の仕方を自分なりに工夫しながら、作品の特徴を捉えて漢詩の世界を読み味わおうしたりしている。 読① 漢詩独特の言葉づかいや調子を生かして朗読している。 読② 作品に描かれた情景や作者の心情についての自分の考えを、他の学習者と比べて相対化したり、別の視点から見直したりしている。 言 漢詩独特の言葉づかいや調子を理解し、古典の世界を楽しんでいる。	読① 漢詩独特の言葉づかいや調子が捉えられない。 →漢詩の基本的な構成について確認させる。 読② 作品に描かれた情景や作者の心情について、自分の考えをもてない。 →「作者が見ている光景・置かれている状況」「その時の気持ち」に自分を置き換えて、その時の感想を問う。 言 作品の特徴を生かして朗読していない。 →対句の構成を指摘させ、その表現効果を考えさせる。	伝国ア(ア) 伝国ア(イ) [言語活動] Cア(感想の交流)
		漢字を身につけよう5【漢】 ●漢字の読み書きについての理解を深める。		1 中学校で学習する漢字を読む。 2 中学校で新しく学習する読みを学ぶ。 →p300資「二年生で学ぶ漢字字典」	関 新しく学習する漢字の読み書きについて関心を深め、意欲的に習得しようとしている。 言 新しく学習する漢字の読み書きについて理解を深めている。	関 「漢字を身につけよう」の課題をおとして、新しく学習する漢字の読み書きへの関心をさらに深めている。 言 新しく学習する漢字の読み書きを確実に身につけている。	言 新しく学習する漢字が読めない。 →参考資料「二年生で学ぶ漢字字典」「二年生で学ぶ音訓」から読み方を探させる。	伝国ウ(ア)
11	④分析的に考える	動物園でできること【読(評論)】 読み方を学ぼう⑤【例示】「なるほど！」と言わせたい ●文章の全体と部分の関係や、例示の効果などに注意して、筆者の主張を読み取る。 ●筆者の動物園に対する考え方について、知識や体験と関連づけて自分の考えをもつ。	5	◆学習目標を確認し、学習の見通しをもつ。 1 筆者が勤めている動物園で「楽しみの場」と「学びの場」を両立させるために実践されている三つの事例を要約する。 2 動物園のあり方についての筆者の主張を読み取り、自分の知識や体験と関連づけて考えをまとめる。 3 筆者がこの文章で示している三つの展示方法の例示の効果を考える。 [学びをひろげよう] 4 3人の意見から一人を選んで、説得力のある反論を200字程度で書く。 ◆学習目標を再確認し、学びを振り返る。	関 筆者の主張を読み取ろうとしたり、それについて、知識や体験と関連づけて自分の考えをもつたりしている。 読① 文章の全体と部分の関係や、例示の効果などに注意して、筆者の主張を読み取っている。 読② 筆者の動物園に対する考え方について、知識や体験と関連づけて自分の考えをもっている。 言 抽象的な概念を表す語句、多義的な意味を表す語句などについて理解し、語感を磨き語彙を豊かにしている。	関 動物園のことからさらに広げて、「野生動物と私たちがこの地球上でともに幸せに生きる道」(139ページ)についても考えようとしている。 読① 例示の効果の評価して、自分のことばで説明している。 読② 動物園に関する、文章で取りあげられていないことについても、知識や体験と関連づけて自分の考えをもっている。 言 「楽しみの場」「学びの場」という語句がわかりやすさに及ぼす効果を評価し、内容理解に活用している。	読① 文章の全体と部分の関係や、例示の効果捉えることができない。 →既習の「読み方を学ぼう③」段落の大中小(41ページ)を想起させ、「読み方を学ぼう⑤」例示の図を活用しながら、全体の構成を捉えさせる。また、それぞれの例をおとして筆者が伝えようとしていることを捉えさせる。 読② 知識や体験と関連づけて読むことができない。 →自分が体験したことのある(あるいは知っている)ことについて述べられているところ、知らないことについて述べられているところについて、それぞれもった感想を比較させる。 言 抽象的な概念を表す語句や、多義的な意味を表す語句の解釈ができない。 →最後の一文の「幸せ」(139ページ)についての解釈やイメージを、他の学習者と交流させる。	Cイ・Cエ [言語活動] Cイ(自分の考えを述べる)

月	単元名	教材名【領域】 ●学習目標	時数	おもな学習活動	評価規準B (おおむね満足できる状況)	評価規準A (十分満足できる状況)	評価規準C(努力を要する状況)とその手だて	学習指導要領 の指導事項・ 言語活動例
		ことば発見2 方言と共通語【言】 ●方言と共通語についての理解を深める。	1	1 方言と共通語の特徴について理解する。 2 方言と共通語の使い分けについて考える。 3 方言のアクセントの特徴について考える。 4 「確かめよう」の課題に取り組む。	関 方言と共通語に関心を持ち、積極的に課題に取り組んでいる。 言 方言と共通語についての理解を深めている。	関 「確かめよう」の課題をとおして、自分の身のまわりから方言の例を探し、その特徴について関心をさらに深めている。 言 方言と共通語の違いやそれぞれのはたらきについて、具体的な場面に即してさらに理解を深めている。	言 方言と共通語の違いが見つけれない。 →「確かめよう1」の課題について、方言でどのように言うかを家族に取材させる。	伝国イ(ア)
		異なる立場や考えを尊重して パネルディスカッション【話聞】 ●決めた話題について、取材や調査などで情報を集めて整理する。 ●話の構成に注意して、要点を捉えたり自分の考えと比べたりしながら聞く。 ●異なる立場や考えを尊重し、互いの発言を検討しながら話し合い、自分の考えを広げる。	5	◆学習目標と学習の流れを確認し、学習の見通しをもつ。 1 テーマを決める。 2 立場ごとにグループを作る。 3 提案を組み立てる。 →p270資「インタビューをする」/p271資「アンケートをとる」 4 パネルディスカッションを開く。 ・はじめのことば ・パネリストの提案 ・パネリスト相互の質問・意見交換 ・フロアからの質問・意見 ・まとめのことば 5 パネルディスカッションを振り返る。 ◆学習目標を再確認し、学びを振り返る。	関 異なる立場や考えを尊重しながら、パネルディスカッションに積極的に取り組んでいる。 話聞① 決めた話題について、取材や調査などで情報を集めて整理している。 話聞② 話の構成に注意して、要点を捉えたり自分の考えと比べたりしながら聞いている。 話聞③ 異なる立場や考えを尊重し、互いの発言を検討しながら話し合い、自分の考えを広げている。 言 相手や目的に応じて、話の形態や展開に違いがあることを理解している。	関 異なる立場や考えを尊重することの大切さや意義を捉え、パネルディスカッションに自覚的に取り組んでいる。 話聞① 決めた話題について、取材や調査の大切さを理解し、情報を集めて整理している。 話聞② 話の構成の効果や意義について理解し、構成に注意して、要点を捉えたり自分の考えと比べたりしながら聞いている。 話聞③ 異なる立場や考えを尊重することの意義を理解し、互いの発言を検討しながら話し合い、自分の考えを広げている。 言 相手や目的に応じて、話の形態や展開を選択したり、使い分けたりしている。	話聞① 決めた話題について、情報を集めることができない。 →他の学習者数人に対して、テーマについての意見を取材し、ノートに書かせる。 話聞② 話の構成に注意することができない。 →他の学習者の発言を、根拠と主張に分けさせる。 話聞③ 異なる立場や考えを尊重できない。 →自分とはまったく異なる主張について、その根拠を検討させる。 言 相手や目的に応じて、話の形態や展開に違いがあることを理解していない。 →他の学習者の発言を比べ、話の展開の仕方の違いをノートに書かせる。	Aア・Aエ・Aオ [言語活動] AI(討論)
		文法のまど2 助詞・助動詞【言】 ●助詞・助動詞について理解する。 ●文の成分の順序や照応、文の種類について理解する。	3	1 空欄に入ることばを探して、いろいろな文をつくる。 2 自立語と付属語の区別や、助詞・助動詞の種類やはたらきについて考える。 3 p228-233「2 助詞・助動詞のはたらき」「3文の成分の順序と照応」「4 文の種類」について理解する。 4 p234-235「確認しよう」を用いて、学習したことを確かめる。	関 助詞・助動詞、文の成分や照応、文の種類に関心を持ち、積極的に課題に取り組んでいる。 言① 助詞・助動詞について理解している。 言② 文の成分の順序や照応、文の種類について理解している。	関 「確認しよう 練習問題2」の課題をとおして、助詞・助動詞、文の成分や照応、文の種類への関心をさらに深めている。 言① 助詞・助動詞の種類やはたらきについて、具体的な文や表現に即して的確に理解している。 言② 文の成分の順序や照応、文の種類について、具体的な文や表現に即して的確に理解している。	言① 助詞や助動詞のはたらきに気づいていない。 →教科書の例文とそこから助詞・助動詞を他のものと入れ替えた文を示して意味を比較させる。 言② 文の成分の順序や照応、文の種類が理解できない。 →文の成分を入れ替えて意味の違いを考えさせたり、重文・複文を単文に切り分けたりさせる。	伝国イ(ウ)・イ(エ)
		漢字を身につけよう6【漢】 ●漢字の読み書きについての理解を深める。		1 中学校で学習する漢字を読む。 2 中学校で新しく学習する読みを学ぶ。 →p301資「二年生で学ぶ漢字字典」	関 新しく学習する漢字の読み書きについて関心を深め、意欲的に習得しようとしている。 言 新しく学習する漢字の読み書きについて理解を深めている。	関 「漢字を身につけよう」の課題をとおして、新しく学習する漢字の読み書きへの関心をさらに深めている。 言 新しく学習する漢字の読み書きを確実に身につけている。	言 新しく学習する漢字が読めない。 →参考資料「二年生で学ぶ漢字字典」「二年生で学ぶ音訓」から読み方を探させる。	伝国ウ(ア)
12	⑤	大阿蘇【読(詩)】 ●詩の表現技法とその効果を理解し、詩に描かれた情景を読み取る。 ●眼前に展開する自然の姿を捉え、想像豊かに朗読する。	2	◆学習目標を確認し、学習の見通しをもつ。 1 繰り返し(リフレイン)や言いかえなどの表現に注意して朗読する。 2 詩を読んで思い描いた情景や印象について、交流する。 [学びをひろげよう] 3 作品にふさわしい読み方をグループで考えて、朗読発表会を開く。 ◆学習目標を再確認し、学びを振り返る。	関 情景を読み取ろうとしたり、想像豊かに朗読しようとしている。 読① 詩の表現技法とその効果について、具体的な表現に基づいて考えながら、詩に描かれた情景を読み取っている。 読② 眼前に展開する自然の姿を捉え、想像豊かに朗読している。 言 助詞や助動詞などはたらきに注意し、語感を磨き語彙を豊かにしている。	関 情景が伝わるような朗読の方法を多様に工夫しようとしている。 読① 詩の表現技法と読者がイメージする情景を、関連づけて説明している。 読② 表現したい情景と関連づけた朗読の留意点を自覚できている。 言 文末の「いる」の繰り返しや、自分の形成したイメージに与えた影響を自覚している。	読① 詩の表現技法とイメージの関連が捉えられない。 →「草をたべている」の繰り返し(リフレイン)を省いたものを提示し、受ける印象や想起されるイメージを比較させる。 読② 朗読を工夫する観点がわからない。 →声の大きさ、緩急、間などの具体的な観点を例示したり、「大きく/小さく」「速く/ゆっくり」など、異なる朗読から受ける印象を比較させたりする。 言 語句のはたらきに着目できない。 →「蕭々と」「もの寂しく」と言い換えてみたり、「いる」を「いた」に置き換えてみたりして、受ける印象を比較させる。	Cイ [言語活動] Cア(感想の交流)
		ことば発見3 敬語の意味と種類【言】 ●敬語の意味と種類についての理解を深める。	2	1 「丁寧語」「尊敬語」「謙譲語」などの敬語について考える。 2 「確かめよう」の課題に取り組む。	関 敬語の意味と種類に関心を持ち、積極的に課題に取り組んでいる。 言 敬語の意味と種類についての理解を深めている。	関 「確かめよう」の課題をとおして、敬語の意味と種類への関心をさらに深めている。 言 敬語の意味と種類について、具体的な表現や語句に即してさらに深く理解を深めている。	言 敬語には適切な使い方があることに気づいていない。 →「確かめよう3」を場面と役を決めて、実際に会話をし、適切でないところを見つけさせる。	伝国イ(ア)

月	単元名	教材名【領域】 ●学習目標	時数	おもな学習活動	評価規準B (おおむね満足できる状況)	評価規準A (十分満足できる状況)	評価規準C(努力を要する状況)とその手だて	学習指導要領の指導事項・言語活動例
		走れメロス 【読(小説)】 読み方を学ぼう⑥【視点人物】世界が違って見えてくる ●場面ごとのできごとを手がかりとして、作品の構成の特徴について考えをまとめる。 ●登場人物の言動の意味を捉え、それぞれの人物の考え方について読み深める。	6	◆学習目標を確認し、学習の見通しをもつ。 1 冒頭からメロスが城を出発する場面を読み、メロスと王がそれぞれどのような人物として描かれているかを考える。 2 城に再び戻るまでのメロスの行動や気持ちを場面ごとにまとめる。 3 「私は、なんだか、もっと恐ろしく大きいもののために走っているのだ。」と言ったとき、メロスはフィロストラスに何を伝えようとしていたのかを考える。 4 王がなぜ、「どうか、わしをも仲間に入れてくれまいか。」と言ったのか、メロスとの出会いの場面と比べながら考える。 [学びをひろげよう] 5 A・Bどちらかの問いを選んで自分の考えを書く。 A 「疑う」ことは悪いことか。 B 本当の「勇者」とはどんな人間か。 ◆学習目標を再確認し、学びを振り返る。	関 構成の特徴について考えをまとめようとして、登場人物の考え方について読みを深めようとしていたりしている。 読① 場面ごとのできごとを手がかりとして、作品の構成の特徴について考えをまとめている。 読② 登場人物の言動の意味を捉え、それぞれの人物の考え方について読み深めている。 言 抽象的な概念を表す語句、類義語と対義語、多義的な意味を表す語句などについて理解し、語感を磨き語彙を豊かにしている。	関 構成や人物の考え方など、観点を明示して根拠を示し、作品に対する自分の考えを表現して、他の学習者と交流しようとしている。 読① 作品の構成の特徴が読者に及ぼす効果を評価しながら、読んでいる。 読② それぞれの登場人物の考え方を関連づけて考えようとして、自分の考えや作品への評価を述べている。 言 情景や心情を表す語句など、表現面に着目して自分の考えや作品への評価を述べている。	読① 作品の構成を捉えることができない。 →「学びの道しるべ2」に提示された観点を手がかりにしながら、作品の場面(の分け方)を捉えさせる。 読② 登場人物の言動の意味と考え方を関連づけることができない。 →「読み方を学ぼう⑥ 視点人物」の図を活用して登場人物の関連を整理したうえで、それぞれの人物の具体的な言動を一つ取りあげて例示し、そこからうかがえる「考え方」を自由に推測し、交流する。 言 効果的に用いられている語句に着目できない。 →教師が一例をあげたり、印象に残った語句や表現を発表し交流させたりすることによって、着目すとおもしろく読める語句を具体的に理解できるようにする。	Cイ・Cウ [言語活動] Cア(感想の交流)
		漢字を身につけよう7 【漢】 ●漢字の読み書きについての理解を深める。		1 中学校で学習する漢字を読む。 2 中学校で新しく学習する読みを学ぶ。 →p303資「二年生で学ぶ漢字字典」	関 新しく学習する漢字の読み書きについて関心を深め、意欲的に習得しようとしている。 言 新しく学習する漢字の読み書きについて理解を深めている。	関 「漢字を身につけよう」の課題をとおして、新しく学習する漢字の読み書きへの関心をさらに深めている。 言 新しく学習する漢字の読み書きを確実に身につけている。	言 新しく学習する漢字が読めない。 →参考資料「二年生で学ぶ漢字字典」「二年生で学ぶ音訓」から読み方を探させる。	伝国ウ(ア)
1	⑥ 思いを伝える	達人のことば 宮大工 西岡常一・彫刻家 外尾悦郎 【読(談話)】 ●二つの文章を読み比べ、共通点と相違点を考えながら、内容を読み取る。 ●達人たちのことばに表れたものの見方を捉え、仕事や生き方について意見をもつ。	5	◆学習目標を確認し、学習の見通しをもつ。 1 文章のまとまりごとに「小見出し」をつける。 2 二人の達人の共通点と相違点を確かめながら、達人たちのものの見方を捉え、自分の意見をもつ。 [学びをひろげよう] 3 図書館やインターネットを活用して、他の名人・達人たちの仕事や生き方についての文章を読んだり、集めたりして、クラスで紹介し合う。 ◆学習目標を再確認し、学びを振り返る。	関 二つの文章を読み比べて内容を読み取ろうとして、仕事や生き方について意見をもとうとしていたりしている。 読① 二つの文章を読み比べ、共通点と相違点を考えながら、内容を読み取っている。 読② 達人たちのことばに表れたものの見方を捉え、仕事や生き方について意見をもっている。 言 話しことばと書きことばとの違い、共通語と方言の果たす役割などについて理解している。	関 複数の文章や資料を関連づけて読むことの効果を自覚し、積極的に活用しようとしている。 読① 二つの文章の共通点だけではなく、相違点に着目することによって、内容理解が重層的になることを理解している。 読② 文章の内容との関連を意識しながら、仕事や生き方についての自分の考えをまとめ、さらに別の文章を読んだり、他の学習者と交流したりしている。 言 話しことばの特徴や効果を意識しながら、音読を工夫している。	読① 二つの文章の関連を捉えることができない。 →「学びの道しるべ1」によって文章の内容を捉えさせたり、それぞれの文章の印象に残った箇所を線で引いたりさせようとして、両方の文章を対照させ、共通点に気づかせる。 読② 文章に表れたものの見方を捉えることができない。 →自分(生徒)が、「なるほど」と納得した一文を選び、その理由とあわせて交流することにより、文章の中心的なメッセージが自覚されるようにする。 言 話しことばの特徴を生かした文体に気づけない。 →任意の箇所を選び、「〇〇さんは、…と語った」のような間接的な文体に書き換えさせ、読み手として受ける印象を比較させる。	Cエ [言語活動] Cウ(調べて得た情報を比較)
		わかりやすく、心をこめて書く手紙 【書】 ●自分の立場と伝えたい事柄や気持ちを明確にして、手紙の形式を踏まえながら構成を工夫して書く。 ●相手や目的に応じて、事柄が正しくわかりやすく、気持ちが十分に伝わる書き方になるように推敲する。	5	◆学習目標と学習の流れを確認し、学習の見通しをもつ。 1 「誰に」「何を」伝えるのかを決める。 2 「どのように」書くかを考えながら、下書きをする。 3 下書きを推敲する。 →p280資「推敲の仕方と観点」 4 清書して、投函する。 ◆学習目標を再確認し、学びを振り返る。	関 わかりやすく、心がこもったものになることを意識して手紙を書くようになっている。 書① 自分の立場と伝えたい事柄や気持ちを明確にして、手紙の形式を踏まえながら構成を工夫して書いている。 書② 相手や目的に応じて、事柄が正しくわかりやすく、気持ちが十分に伝わる書き方になるように推敲している。 言 話しことばと書きことばとの違いや、相手や目的に応じて、文章の形態や展開に違いがあることを理解している。	関 手紙の価値と役割を理解し、わかりやすく、心がこもったものになることを明確に意識して手紙を書くようになっている。 書① 自分の立場と伝えたい事柄や気持ちを明確にして、それが効果的に届くように、手紙の形式を踏まえながら構成を工夫して書いている。 書② 相手や目的に応じて、事柄が正しくわかりやすく、気持ちが十分に伝わる書き方になるように、相手意識をもって推敲している。 言 話しことばと書きことばとの違いや、相手や目的に応じて、文章の形態や展開に違いがあることを理解できない。 →198ページの手紙例から話しことばにはない言葉づかい、手紙独特の言葉づかいを抜き出させる。	書① 手紙の形式を踏まえて書くことができない。 →198ページの手紙例をもとに、自分の要件を伝える手紙を書かせる。 書② 推敲ができない。 →ひらがなで書かれた部分は辞書を引いて漢字に直させる。さらに誤字を見つけさせる。 →「誰に」あてた手紙なのかを意識させ(相手意識をもたせ)、文末を中心に直させる。 言 話しことばと書きことばとの違いや、相手や目的に応じて、文章の形態や展開に違いがあることを理解できない。 →198ページの手紙例から話しことばにはない言葉づかい、手紙独特の言葉づかいを抜き出させる。	Bイ・Bエ [言語活動] Bウ(手紙)
2		表現プラザ② 対話劇を体験しよう 【話聞】 ●対話劇とその振り返りの話し合いをとおして、話しことばの特徴やコミュニケーションについての考えを広げる。	3	◆学習目標と学習の流れを確認し、学習の見通しをもつ。 1 グループに分かれて台本を読む。 2 空欄の部分のせりふを自分たちで考えて、台本を作り変える。 3 リハーサルをして、発表会を開く。 ◆学習目標を再確認し、学びを振り返る。	関 関係や状況によって変化することばのやりとりを楽しみながら、対話劇に積極的に取り組んでいる。 話聞 対話劇とその振り返りの話し合いをとおして、話しことばの特徴やコミュニケーションについての考えを広げている。 言 話しことばと書きことばとの違い、共通語と方言の果たす役割、敬語のはたらきなどについて理解している。	関 関係や状況による変化を自覚しながら、対話劇に積極的に取り組んでいる。 話聞 対話劇とその振り返りの話し合いをとおして、話しことばの特徴やコミュニケーションの特徴や意義、効果を捉えて考えを広げている。 言 話しことばと書きことばとの違い、共通語と方言の果たす役割、敬語のはたらきなどについて、その効果をふまえて理解し、活用している。	話聞 コミュニケーションを捉える視点がもてない。 →200ページのセリフの一部を書きことばに直させる。 言 共通語と方言の果たす役割、敬語のはたらきなどが意識できない。 →200ページのせりふを敬語(方言)に直させる(印象の違いをノートに書かせる)。	Aオ

月	単元名	教材名【領域】 ●学習目標	時数	おもな学習活動	評価規準B (おおむね満足できる状況)	評価規準A (十分満足できる状況)	評価規準C(努力を要する状況)とその手だて	学習指導要領 の指導事項・ 言語活動例
		漢字を身につけよう8 【漢】 ●漢字の読み書きについての理解を深める。		1 中学校で学習する漢字を読む。 2 中学校で新しく学習する読みを学ぶ。 →p304資「二年生で学ぶ漢字字典」	関 新しく学習する漢字の読み書きについて関心を深め、意欲的に習得しようとしている。 言 新しく学習する漢字の読み書きについて理解を深めている。	関 「漢字を身につけよう」の課題をとおして、新しく学習する漢字の読み書きへの関心をさらに深めている。 言 新しく学習する漢字の読み書きを確実に身につけている。	言 新しく学習する漢字が読めない。 →参考資料「二年生で学ぶ漢字字典」「二年生で学ぶ音訓」から読み方を探させる。	伝国ウ(ア)
	⑦つながりを考える	ポテト・スープが大好きな猫 【読(小説)】 ●場面の展開や登場人物の描写などに注意して、関係や心情を読み取る。 ●登場人物の言動の意味を考え、内容を理解する。		◆学習目標を確認し、学習の見通しをもつ。 1 「おじいさん」と「猫」がそれぞれの気持ちとは異なる言動をとっている部分を探す。 2 「猫」がなぜ魚を捕ってきたのかについて考える。 3 おじいさんの気持ちの変化について考える。 4 「ポテト・スープ」の果たしている役割について、考えたことを話し合う。 [学びをひろげよう] 5 A・Bどちらかの課題を選んで取り組む。 A 気に入った場面を中心に、「猫」の視点で物語を書き換える。 B 「ブラックボード」たちがどんな会話をしているか、想像して書く。 5 ◆学習目標を再確認し、学びを振り返る。	関 登場人物の関係や心情を読み取ろうとしたり、言動の意味を考えて内容を理解しようとしている。 読① 場面の展開や登場人物の描写などに注意して、関係や心情を読み取っている。 読② 登場人物の言動の意味を考え、内容を理解している。 言 多義的な意味を表す語句などについて理解し、語感を磨き語彙を豊かにしている。	関 登場人物の関係を意識しながら読むことのおもしろさ気づき、他の作品へ読み広げようとしている。 読① 登場人物の関係がこの小説のおもしろさに及ぼしている効果を、自分のことばで説明している。 読② 物言わぬ「猫」の思いをさまざまに想像することのおもしろさを実感している。 言 「猫」の様子や行動を描写する語句の多様性や効果を、自分のことばで説明している。	読① 登場人物の関係や心情を読み取ることができない。 →まず、「おじいさん」の言動を先に列挙し、そこに「猫」の描写を対応させて整理させる。心情を直接説明した部分(「けっこう気に入っている」など)をはじめに指摘させ、間接的に述べている部分へと進む。 読② 登場人物の言動の意味を考えることができない。 →言動を表現することばからイメージされることを考えたうえで、「学びの道しるべ1」をふまえて、それとは逆の関係になっている場合もあることに気づかせ、言動と意味との対応関係について、正逆双方の観点から考えてみるように促す。 言 語句のもつ多義性に着目できない。 →おじいさんが猫に向けたことば(会話)から一つを取りあげ、ことばのおりのメッセージにはなっていないことに気づかせ、類似の表現を見つけさせる。	Cア・Cイ
3		ふるさとを見つめ直す 地域情報誌 【話聞/書】 ●目的に応じて会議を開き、互いの発言を検討して考えを広げる。 ●地域の特色や課題について、取材や調査などで集めた情報を検討し、文章にまとめる。	9	◆学習目標と学習の流れを確認し、学習の見通しをもつ。 1 編集会議を開き、企画を立てる。 2 情報収集を行う。 →p270資「インタビューをする」/p271資「アンケートをとる」 3 レイアウトを決める。 4 記事を書き、誌面を作る。 →p280資「推敲の仕方と観点」 5 発表会を開く。 →p277資「手紙・はがき・メールの書き方」 ◆学習目標を再確認し、学びを振り返る。	関 地域の人々との交流を通してふるさとのよさを発見し、それを伝える地域情報誌づくりに積極的に取り組んでいる。 話聞 目的に応じて会議を開き、互いの発言を検討して考えを広げている。 書 地域の特色や課題について、取材や調査などで集めた情報を検討し、文章にまとめている。 言 相手や目的に応じて、文章の形態や展開に違いがあることを理解している。	関 地域情報誌づくりの価値と意義を理解し、よりよいものにしようと積極的に取り組んでいる。 話聞 互いの発言を関連づけ、考えを創り出しながら、会議の目的の達成をめざして話し合っている。 書 取材や調査で集めた情報を整理・統合し、目的に応じた文章にまとめている。 言 相手や目的に応じて、文章の形態や展開を選択したり、使い分けたりしている。	話聞 他の学習者の発言と自分の考えをつなげることができない。 →他の学習者の発言で「気になったこと」をノートに書かせる。 書 取材や調査などで集めた情報をまとめることができない。 →「どんな調査をしたか」「何がわかったか」をノートに簡単に書かせる。 言 相手や目的に応じて、文章の形態や展開に違いがあることを意識できない。 →「誰に読んでもらうのか」「文章上配慮することはどんなことか」をノートに書かせる。	Aオ・Bア 伝国イ(オ) [言語活動] Aア(調べてわかったことを説明・発表)
		漢字を身につけよう9 【漢】 ●漢字の読み書きについての理解を深める。		1 中学校で学習する漢字を読む。 2 中学校で新しく学習する特別な読み方をする漢字を学ぶ。 →p305資「二年生で学ぶ漢字字典」	関 新しく学習する漢字の読み書きについて関心を深め、意欲的に習得しようとしている。 言 新しく学習する漢字の読み書きについて理解を深めている。	関 「漢字を身につけよう」の課題をとおして、新しく学習する漢字の読み書きへの関心をさらに深めている。 言 新しく学習する漢字の読み書きを確実に身につけている。	言 新しく学習する漢字が読めない。 →参考資料「二年生で学ぶ漢字字典」「二年生で学ぶ音訓」から読み方を探させる。	伝国ウ(ア)
		歌のことば あとひとつ						

月	単元名	教材名【領域】 ●学習目標	時数	おもな学習活動	評価規準B (おおむね満足できる状況)	評価規準A (十分満足できる状況)	評価規準C(努力を要する状況)とその手だて	学習指導要領の指導事項・言語活動例
4	学びの扉をひらく	水のようなひと【読(詩)】 読み方を学ぼう①【隠された意味】国語辞典に載っていない意味 ●ことばの効果的な使い方など、表現の工夫に注意しながら読む。	2	◆学習目標を確認し、学習の見通しをもつ。 1 それぞれの連でたとえているものを想像しながら、繰り返し朗読する。 2 作者は、人を何にたとえているか、順にあげて整理する。 3 「思いがけない豊かなこと」とは、どのようなことかについて考える。 4 「～のようなひと」「～のようなもの」というテーマで、たとえを使って詩をつくり、クラスで発表する。 ◆学習目標を再確認し、学びを振り返る。	関 表現の工夫に注意して読むとしている。 読 ことばの効果的な使い方など、表現の工夫に注意しながら読んでいく。 言 ことばのもつ意味やイメージの広がりや深まりを捉え、語感を磨き語彙を豊かにしている。	関 自分のもったイメージが伝わるように、朗読を多様に工夫しようとしている。 読 各連の書き出しや、「……のようなど」の表現のもつ効果を評価しながら自分が受けた印象を説明し、他の学習者と交流している。 言 詩の特徴をふまえて、比喻表現の効果を意識しながら、自分なりの表現を工夫している(学びをひろげよう)。	読 比喻表現や体言止めの効果を実感できない。 →「……のようなど」の行を省略したり、体言止めのところに「です」を付け加えたりして、受ける印象を比較させる。 言 ことばのイメージを広げることができない。 →「……のようなど」に続く作者のイメージや、他の学習者がもった印象にふれさせ、「イメージを広げる」とは、具体的にはどうすることか、理解させる。	Cア [言語活動] Cア(批評)
		間の文化【読(評論)】 読み方を学ぼう②【対比】比べることで明確に ●論理の展開の仕方に注意して、筆者の主張を読み取る。 ●事例の提示の仕方を捉え、日本と西洋の文化の違いについて自分の意見をもつ。	4	◆学習目標を確認し、学習の見通しをもつ。 1 日本の文化における「間」について、それぞれの特徴をまとめる。 ・空間的な間 ・時間的な間 ・心理的な間 2 効果的に主張を伝えるために、論理の展開や事例の提示について、筆者がどのような工夫をしているかを考える。 3 「間の使い方はこの国の最も基本的な「掟」であって、日本文化はまさに「間の文化」ということができるだろう。」という主張について、自分の意見をまとめて発表する。 [学びをひろげよう] 4 A・Bどちらかの課題を選んで取り組む。 A 「間」の使い方についての事例を探し、効果やはたらきについて話し合う。 B 対比の手法を用いて、日本の文化を紹介するリーフレットを作る。 ◆学習目標を再確認し、学びを振り返る。	関 筆者の主張を読み取ろうとしたり、文化の違いについて自分の意見をもとめたりしている。 読① 論理の展開の仕方に注意して、筆者の主張を読み取っている。 読② 事例の提示の仕方を捉え、日本と西洋の文化の違いについて自分の意見をもっている。 言 具体と抽象の位相に注意して語句と語句との関係を捉え、語感を磨き語彙を豊かにしている。	関 評論を読み、筆者独自の主張にふれて、自分のものの見方や考え方を広げることの意義を実感している。 読① 論理展開のもつ効果(わかりやすさや説得力)を評価し、自分のことばで説明している。 読② 自分の考え(意見)を多面的に深めていくために、対比すること(異なる考えにふれて、比べることが有効性をもつこと)を実感している。 言 「空間的」「時間的」「心理的」のように、内容や主張を概括して端的に述べる表現の効果を理解している。	読① 論理の展開を捉えることができない。 →「空間」「時間」「心理」の順になっているのはなぜか、と問い、すぐには答えられなくても、段落の順序を意識することから、論理の展開を考えることへとつないでいくようにする。 読② 対比の構成を意識することができない。 →「読み方を学ぼう② 対比」の図と、本文の叙述とを対応させながら理解させる。 言 抽象的な概念を表す語句が理解できない。 →「空間的」「時間的」「心理的」のような意味段落の冒頭に出てくる語と、それより後に出てくる具体例との関連を意識させる。	Cイ・Cエ [言語活動] Cイ(論説の情報と比較)
		漢字を身につけよう1【漢】 ●漢字の読み書きについての理解を深める。	1	1 中学校で学習する漢字を読む。 2 中学校で新しく学習する読みを学ぶ。 →p280資「三年生で学ぶ漢字字典」 ※「漢字を身につけよう」は、年間をとおして計5時間を配当している。	関 新しく学習する漢字の読み書きについて関心を深め、意欲的に習得しようとしている。 言 新しく学習する漢字の読み書きについて理解を深めている。	関 「漢字を身につけよう」の課題をとおして、新しく学習する漢字の読み書きへの関心をさらに深めている。 言 新しく学習する漢字の読み書きを確実に身につけている。	言 新しく学習する漢字が読めない。 →参考資料「三年生で学ぶ漢字字典」「三年生で学ぶ音訓」から読み方を探させる。	伝国ウ(ア)
5	① かわりを捉える	握手【読(小説)】 読み方を学ぼう③【回想】時は行きつ戻りつ ●場面設定の仕方や登場人物の描かれ方を読み取り、その人物像を的確に捉える。 ●登場人物の会話に注目し、人間関係について自分の意見をもつ。	5	◆学習目標を確認し、学習の見通しをもつ。 1 時間の流れに注意して、描かれているできごとを整理する。 2 「握手」「てのひらを擦り合わせる」といったしぐさに着目して、ルイイ修道士の変化を整理する。 3 「ルイイ修道士」と「私」のせりふにこめられた心情を考える。 4 両手の人さし指を交差させて打ちつけるしぐさが描かれている場面を見つけ、その人物の心の中のことばを考える。 [学びをひろげよう] 5 これまでに読んだ小説の表現技法などと比べながら、この作品を批評する。 ◆学習目標を再確認し、学びを振り返る。	関 人物像を的確に捉えようとしていたり、人間関係について自分の意見をもとめたりしている。 読① 場面設定の仕方や登場人物の描かれ方を読み取り、その人物像を的確に捉えている。 読② 登場人物の会話に注目し、人間関係について自分の意見をもっている。 言 登場人物の描かれ方に着目して読み、語感を磨き語彙を豊かにしている。	関 人物像や人間関係に着目して小説を読み深めることのおもしろさを実感し、積極的に読み広げようとしている。 読① 場面や人物の設定がもたらす効果や捉え、評価しながら読んでいく。 読② 人間関係について自分の考えを、他の学習者との交流によって見直したり深め広げたりしている。 言 「しぐさ」のもつ象徴性が、小説の中で果たしている役割を理解し、その効果について評価している。	読① 場面設定を捉えることができない。 →「読み方を学ぼう③ 回想」の図を、本文と対照しながら理解させる。 読② 人物像や登場人物の相互関係を捉えることができない。 →会話や出来事(回想されるエピソード)ごとに範囲を限定し、そこから想像される人物像や互いの思いを想像させたうえで、共通点を整理する。 言 「しぐさ」の暗示性や象徴性に着目することができない。 →まず、「しぐさ」の意味について直接語られている(説明されている)叙述(例えば35ページ)を抜き出し、そこからわかることを確認したうえで、さらに付け加えることのできるような意味を考えさせる。	Cイ [言語活動] Cア(批評)
		ことば発見1 和語・漢語・外来語【言】 ●和語・漢語・外来語についての理解を深める。	1	1 「和語」「漢語」「外来語」などの語種やその使い分けについて考える。 2 「確かめよう」の課題に取り組む。	関 和語・漢語・外来語に関心をもち、積極的に課題に取り組んでいる。 言 和語・漢語・外来語についての理解を深めている。	関 「確かめよう」の課題をとおして、和語・漢語・外来語への関心をさらに深めている。 言 和語・漢語・外来語について、具体的な表現に即してさらに理解を深めている。	言 対応する和語・漢語・外来語の使い分けについて気づいていない。 →45ページ上段の例文で、和語・漢語・外来語を入れ替えたときの違和感を確認させる。	伝国イ(イ)
		論理の展開を工夫して、説得力をもたせる 小論文【書】 ●論理の展開や引用の仕方を工夫して、説得力のある文章を書く。 ●書いた文章を読み返し、語句の使い方、構成、引用の仕方などに注意して文章全体を整える。	5	◆学習目標と学習の流れを確認し、学習の見通しをもつ。 1 課題について、自分の考えをまとめる。 2 小論文を書く。 3 引用の仕方や文章構成などを中心に推敲する。 →p269資「推敲の仕方と観点」 4 書いた文章を読み合い、互いの考えが深まるように交流する。 ◆学習目標を再確認し、学びを振り返る。	関 論理の展開を工夫して、説得力のある小論文を書くこととしている。 書① 論理の展開や引用の仕方を工夫して、説得力のある文章を書いている。 書② 書いた文章を読み返し、語句の使い方、構成、引用の仕方などに注意して文章全体を整えている。 言 説得力をもたせるためのことばの選択や使い方などを考え、語感を磨き語彙を豊かにしている。	関 論理の展開を工夫することの効果や意識し、説得力のある小論文を書くこととしている。 書① 論理の展開や引用の仕方が説得力に影響を与えることを自覚し、意図的に活用して文章を書いている。 書② 完成度を高めようと、書いた文章を読み返し、語句の使い方、構成、引用の仕方などに注意して文章全体を整えている。 言 説得力をもたせるためのことばの選択や使い方、その効果などを考え、語感を磨き語彙を豊かにしている。	書① 引用することができない。 →47ページの友情論から一つ選んで文章中に引用させる。 書② 文章構成を意識できない。 →書いた文章を読み返させ、50ページ「文章構成のポイント」を参考に、構成を整えさせる。 言 説得力をもたせるためのことばの選択や使い方などが意識できない。 →51ページ「小論文モデル」から、説得力をもたせていると感じさせることばを抜き出させる。	Bイ・Bウ 伝国ア(イ)

月	単元名	教材名【領域】 ●学習目標	時数	おもな学習活動	評価規準B (おおむね満足できる状況)	評価規準A (十分満足できる状況)	評価規準C(努力を要する状況)とその手だて	学習指導要領 の指導事項・ 言語活動例
6	② ことばを磨く	漢字を身につけよう2【漢】 ●漢字の読み書きについての理解を深める。		1 中学校で学習する漢字を読む。 2 中学校で新しく学習する読みを学ぶ。 →p282資「三年生で学ぶ漢字字典」	関 新しく学習する漢字の読み書きについて関心を深め、意欲的に習得しようとしている。 言 新しく学習する漢字の読み書きについて理解を深めている。	関 「漢字を身につけよう」の課題をとおして、新しく学習する漢字の読み書きへの関心をさらに深めている。 言 新しく学習する漢字の読み書きを確実に身につけている。	言 新しく学習する漢字が読めない。 →参考資料「三年生で学ぶ漢字字典」「三年生で学ぶ音訓」から読み方を探させる。	伝国ウ(ア)
		俳句の世界／俳句十句【読(俳句)】 ●俳句のきまりや特徴を理解して、作品の内容を捉える。 ●語句の意味や表現の効果を考えながら、俳句の世界を読み味わう。	4	◆学習目標を確認し、学習の見通しをもつ。 1 「俳句の世界」の文章を読み、俳句の特徴を書き出す。 2 それぞれの情景を想像しながら、俳句を音読する。 3 季節や意味の切れめなどに着目して、それぞれの俳句にこめられている情景や心情を考える。 4 好きな俳句を選んで、表現の工夫について考え、その効果と俳句の魅力をまとめる。 [学びをひろげよう] 5 A・Bどちらかの課題を選んで取り組む。 A 「歳時記」などから季語を選び、季語の解説やその季語を用いた俳句などと合わせて「ミニ歳時記」を編集する。 B 俳句のきまりを意識しながら俳句をつくり、紹介し合う。 ◆学習目標を再確認し、学びを振り返る。	関 俳句のきまりや特徴を理解して内容を捉えようとして、俳句の世界を読み味わおうとしている。 読① 俳句のきまりや特徴を理解して、作品の内容を捉えている。 読② 語句の意味や表現の効果を考えながら、俳句の世界を読み味わっている。 言 ことばの選択や使い分け、表現の効果を考えながら読み、語感を磨き語彙を豊かにしている。	関 俳句の魅力や味わいを知り、関心をもつてさらに読み広げようとしている。 読① 定型であることや短いことが、逆に豊かさや奥深さを生んでいることを、具体的な句に即して理解し、自分のことばで説明している。 読② 語句の解釈や表現効果の説明を確かにつまえて、俳句の鑑賞や俳句の魅力を多様に表現している。 言 凝縮されたことばのもつ可能性や魅力を実感している。	読① 俳句のきまりや特徴がわからず、内容理解に生かせない。 →「俳句の世界」での「まさなを……」の句についての説明をとおして「切れ字」の効果について理解することなどをきっかけにする。 読② 俳句の意味(表現している世界)を捉えることができない。 →「俳句の世界」で筆者がおこなっている想像(イメージ化)を追体験させる。 言 用いられている語(句)の効果が理解できない。 →「俳句の世界」での筆者の説明を参考にさせたり、他の語と置き換えて印象を比べさせたりする。	Cア [言語活動] Cア(批評)
		表現プラザ① 句会をひらこう【話聞】 ●それぞれの作品についての意見や感想、評価を活発に交流できるように進行の工夫を工夫する。	2	◆学習目標を確認し、学習の見通しをもつ。 1 一人2句ずつ俳句を作り、短冊などに書いて提出する。 2 作者がわからないように句を並べた紙を配る。 3 いいと思う句を一人5句選び、投票する。 4 最も多くの票を集めた俳句を発表する。 5 なぜその句に投票したかを述べ合う。 6 句の作者を明かし、感想を述べる。 7 作品をめぐって話し合う。 ◆学習目標を再確認し、学びを振り返る。	関 それぞれの作品に表れた感性や考え方を楽しみながら、句会に積極的に取り組んでいる。 話聞 それぞれの作品についての意見や感想、評価を活発に交流できるように進行の工夫を工夫する。 言 俳句におけることばの選択や使い分けについて考え、語感を磨き語彙を豊かにしている。	関 それぞれの作品に表れた感性や考え方を大切に楽しむことの意義を感じながら、句会に積極的に取り組んでいる。 話聞 それぞれの作品についての意見や感想、評価の大切さや価値を意識し、活発に交流できるように進行の工夫を工夫する。 言 俳句におけることばの選択や使い分けとその効果について考え、語感を磨き語彙を豊かにしている。	話聞 それぞれの作品についての意見や感想を述べることができない。 →「選句」した理由をノートに書かせる。 言 俳句におけることばの選択や使い分けについて理解できない。 →「俳句十句」から、俳句らしいことばの使い方に線を引かせる。	Aエ
		文法のまど 表現につながる文法【言】 ●ことばの選び方による伝わり方や与える印象などの違いについて考え、語感を磨く。	2	1 p64の①～③の例文について、空欄に入ることばは「～で」と「～において」のどちらが適切かを考える。 2 p208-209「表現につながる文法」について理解する。 3 p210-211の「確認しよう」を用いて、学習したことを確かめる。	関 ことばの選び方に関心を持ち、積極的に課題に取り組んでいる。 言 似た意味のことばの使い分けによる伝わり方や与える印象の違いなどについて考え、語感を磨いている。	関 「確認しよう 練習問題」の課題をとおして、ことばの選び方への関心をさらに深めている。 言 似た意味のことばの使い分けによる伝わり方や与える印象の違いなどについて、具体的な場面や状況に即して的確に理解し、表現している。	言 似た意味のことばの使い分けによる伝わり方や与える印象の違いなどに気づいていない。 →同じ内容を伝える時に、場面や状況を変えながら似た意味のことばから適切なものを選ばせる。	伝国イ(イ)
7		漢字を身につけよう3【漢】 ●漢字の読み書きについての理解を深める。		1 中学校で学習する漢字を読む。 2 中学校で新しく学習する読みを学ぶ。 →p283資「三年生で学ぶ漢字字典」	関 新しく学習する漢字の読み書きについて関心を深め、意欲的に習得しようとしている。 言 新しく学習する漢字の読み書きについて理解を深めている。	関 「漢字を身につけよう」の課題をとおして、新しく学習する漢字の読み書きへの関心をさらに深めている。 言 新しく学習する漢字の読み書きを確実に身につけている。	言 新しく学習する漢字が読めない。 →参考資料「三年生で学ぶ漢字字典」「三年生で学ぶ音訓」から読み方を探させる。	伝国ウ(ア)
		状況に応じて話す力を養うブックトーク【話聞】 ●場や相手に応じて、話の内容を構成し、話し方を工夫する。 ●聞き取った内容や表現の仕方を評価して、自分の考え方を深めたり、表現に生かしたりする。	4	◆学習目標と学習の流れを確認し、学習の見通しをもつ。 1 今までの読書生活を振り返る。 2 目的をふまえて相手と場面を想定し、紹介する本を選ぶ。 3 ブックトークの構成を考える。 4 グループでブックトークを行う。 5 ブックトークについて話し合う。 ◆学習目標を再確認し、学びを振り返る。	関 状況に応じて話す力を意識しながら、ブックトークに積極的に取り組んでいる。 話聞① 場や相手に応じて、話の内容を構成し、話し方を工夫している。 話聞② 聞き取った内容や表現の仕方を評価して、自分の考え方を深めたり、表現に生かしたりしている。 言 世代によることばの違いや敬語の適切な使い方などについて考え、語感を磨き語彙を豊かにしている。	関 状況に応じて話す力の大切さや価値を意識しながら、ブックトークに積極的に取り組んでいる。 話聞① 場や相手に応じて、話の内容を構成し、目的を意図して話し方を工夫している。 話聞② 聞き取った内容や表現の仕方を評価して、意識的に自分の考え方を深めたり、表現に生かしたりしている。 言 世代によることばの違いや敬語の適切な使い方、その意義などについて考え、語感を磨き語彙を豊かにしている。	話聞① 場や相手に応じた話し方を工夫することができない。 →68ページ「話し方のポイント」を読んで参考になった部分に線を引く。 話聞② 聞き取った内容や表現の仕方を評価することができない。 →他の学習者の発表から得たものをノートにメモさせる。 言 世代によることばの違いや敬語の適切な使い方などについて、理解できない。 →他の学習者の発表から、よいと思ったことばの使い方をノートにメモする。	Aイ・Aウ [言語活動] Aア(スピーチ)
		花や咲く咲く【読書(小説)】 ●目的に応じて本を読み、知識を広げたり自分の考えを深めたりする。	2	1 教材文を通読する。 2 この作品の全体や、同じ作者の別の作品を読む。	関 小説を読むことを契機として本を選んで読み、知識を広げたり自分の考えを深めたりしようとしている。 読 目的に応じて本を読み、知識を広げたり自分の考えを深めたりしている。 言 和語・漢語・外来語などの使い分けに注意して読み、語感を磨き語彙を豊かにしている。	関 小説を読んで考えたことを積極的に交流しようとして、さらに読み広げようとしている。 読 小説の内容を読むことにとどまらず、自分の考えをもったり、考えたことをまとめて記録したりしている。 言 あらすじや出来事だけではなく、表現にも着目して、自分の考えをもったり、感想をまとめていたりしている。	読 本を選んだり読書の範囲を広げたりすることができない。 →読書に関する交流の機会を多く設定したり、選書の方法を含めた読書紹介の場を設けたりする。 言 語句に着目して読むことができない。 →読書紹介や感想の中に、具体的な語句や表現(お気に入りの表現やお勧めのフレーズ)を引用するようなルールを設定する。	Cオ [言語活動] Cウ(本の選び方や読み方)

月	単元名	教材名【領域】 ●学習目標	時数	おもな学習活動	評価規準B (おおむね満足できる状況)	評価規準A (十分満足できる状況)	評価規準C(努力を要する状況)とその手だて	学習指導要領 の指導事項・ 言語活動例
9	③ 多角的に考える	フロン規制の物語—〈杞憂〉と〈転ばぬ先の杖〉のはざま 【読(論説)】 読み方を学ぼう④【小見出し】要点をひとめで ●文章の展開の仕方や、小見出しのつけ方などについて、その意図や効果を捉える。 ●「科学技術の発達」に対する筆者の見方・考え方を捉え、自分の考えを広げる。	5	◆学習目標を確認し、学習の見通しをもつ。 1 「夢の化学物質」とも呼ばれたフロンの「優れた性質」と「隠れていた性質」について、それぞれ箇条書きで列挙する。 2 フロン規制に向けて、どのような意見やできごとがあったか、次の二つに分けて整理する。 ・規制を進める方向のもの ・規制を抑える方向のもの 3 最後の段落における筆者の主張に対して、自分の考えを文章にまとめる。 4 冒頭の段落において、筆者が「あなた自身も将来、その物語の登場人物に加わるかもしれないのです。」と述べた理由を考える。 5 冒頭の段落において「あなた」ということばが用いられていることの効果を考える。 6 「夢の化学物質」から「未完の物語」までの五つの小見出しについて、次の点から意見をまとめる。 ・筆者は、小見出しのつけ方にどのような工夫をしているか。 ・小見出しがあると、読み進めていくときにどのような効果があるか。 [学びをひろげよう] 7 ㉑～㉓の図表の中から、二つ選んでこの文章に加えるとしたら、どれとどれを選ぶか。入れる場所と入れ方、入れた場合の効果を発表し合う。 ◆学習目標を再確認し、学びを振り返る。	関 筆者の表現の工夫について、その意図や効果を捉えようとして、筆者の見方・考え方を捉えて、自分の考えを広げようとしていたりしている。 読① 文章の展開の仕方や、小見出しのつけ方などについて、その意図や効果を捉えている。 読② 「科学技術の発達」に対する筆者の見方・考え方を捉え、自分の考えを広げている。 言 慣用句・四字熟語などに関する知識を広げ、和語・漢語・外来語などの使い分けについて注意し、語感を磨き語彙を豊かにしている。	関 論説を読むことで得られた問題意識や見方の広がりや自覚し、さらに調べ、考え続けたり、読み広げたりしようとしている。 読① 小見出しの効果を評価し、自分のことばで説明している。 読② 「よくも悪くもなる」現実や、「科学的な思考力」と「柔軟な想像力」を求める筆者の主張を理解し、その困難さをふまえたうえで、自分自身に関わる問題として主体的に考えようとしている。 言 慣用句や四字熟語を用いる効果を実感し、他の例を見つけたり、自分の表現に活用したりしている。	読① 文章の展開の仕方や小見出しの効果を捉えることができない。 →「読み方を学ぼう④ 小見出し」の図を、本文と対照しながら理解させようとして、読み手として小見出しから予想したことを、他の学習者と交流させる。 読② 筆者の考え方を具体的・実感的に捉えることができない。 →フロンについての具体的な内容を整理し理解させようとして、「以上のように」(91ページ)以降の一般化との関連を確認させる。 言 慣用句や四字熟語が用いられていることが意識できない。 →副題を外したり、別のことばに置き換えてみたりして、主張の伝わり方や、受ける印象を比較させる。	Cイ・Cエ [言語活動] Cイ(論説の情報を比較)
		合意を形成し、課題を解決する 企画会議 【話聞】 ●社会生活の中から話題を決め、経験や知識を整理しながら、表現を工夫し、説得力のある発言をする。 ●課題の解決に向けて、互いの考えを生かしたり調整したりできるように進行の仕方を工夫して、話し合いを効果的に展開する。	5	◆学習目標と学習の流れを確認し、学習の見通しをもつ。 1 対話の場を設定し、体験する。 ・対話の場1:グループでアイデアを出し合い、企画案をまとめる。 ・対話の場2:クラスや学年で企画会議を開き、グループの企画案を検討する。 2 対話の体験を振り返って話し合う。 ◆学習目標を再確認し、学びを振り返る。	関 合意を形成し、課題を解決することを意識して、企画会議に積極的に取り組んでいる。 話聞① 社会生活の中から話題を決め、経験や知識を整理しながら、表現を工夫し、説得力のある発言をしている。 話聞② 課題の解決に向けて、互いの考えを生かしたり調整したりできるように進行の仕方を工夫して、話し合いを効果的に展開している。 言 合意形成や課題解決に向けたことばの選択や使い方について考え、語感を磨き語彙を豊かにしている。	関 合意を形成し、課題を解決することを意識するとともにその意義や価値を理解して、企画会議に積極的に取り組んでいる。 話聞① 社会生活の中から話題を決め、経験や知識を整理しながら、目的を意識し、意図的に表現を工夫し、説得力のある発言をしている。 話聞② 課題の解決に向けて、互いの考えを生かしたり調整したりできるように、進行の仕方の重要性を意識し、仕方を工夫して、話し合いを効果的に展開している。 言 合意形成や課題解決に向けたことばの選択や使い方、その効果について考え、語感を磨き語彙を豊かにしている。	話聞① 説得力を意識した発言ができない。 →伝えたい内容にふさわしい話し方や資料の示し方はどのようなものかを、グループでの活動をおして確かめさせる。 話聞② 話し合いの展開を意識できない。 →97ページ「話し合いのポイント」から、納得した部分に線を引かせる(ノートに抜き出させる)。 言 ことばの選択や使い方についての理解ができない。 →提案したい内容をどのようなことばで表現するとよいか、類義語・対義語辞典などを用いて考えさせる。	Aア・Aエ [言語活動] Aイ(意見を述べ合う)
		漢字を身につけよう4 【漢】 ●漢字の読み書きについての理解を深める。		1 中学校で学習する漢字を読む。 2 中学校で新しく学習する読みを学ぶ。 →p285頁「三年生で学ぶ漢字字典」	関 新しく学習する漢字の読み書きについて関心を深め、意欲的に習得しようとしている。 言 新しく学習する漢字の読み書きについて理解を深めている。	関 「漢字を身につけよう」の課題をおして、新しく学習する漢字の読み書きへの関心をさらに深めている。 言 新しく学習する漢字の読み書きを確実に身につけている。	言 新しく学習する漢字が読めない。 →参考資料「三年生で学ぶ漢字字典」「三年生で学ぶ音訓」から読み方を探させる。	伝国ウ(ア)
10	古典に学ぶ	和歌の世界—万葉集・古今和歌集・新古今和歌集 【伝(古文)】 ●和歌に詠まれた背景を想像しながら、情景や心情を読み取る。 ●和歌の形式や表現の特徴を捉え、その効果について理解する。	4	◆学習目標を確認し、学習の見通しをもつ。 1 和歌のリズムや意味の切れめに注意して音読する。 2 和歌が詠まれた背景を想像しながら、それぞれの和歌の情景や心情を捉える。 [学びをひろげよう] 3 最も印象に残った和歌を一首選び、その歌を紹介する文章を書いて交流する。 ◆学習目標を再確認し、学びを振り返る。	関 作品の情景や心情を読み取ろうとして、形式や表現の特徴を捉えて、その効果を理解しようとしていたりしている。 読① 和歌に詠まれた背景を想像しながら、情景や心情を読み取っている。 読② 和歌の形式や表現の特徴を捉え、その効果について理解している。 言 歴史的背景などに注意して読んだり、古典の一節を引用した文章を書いたりして、古典の世界に親しんでいる。	関 和歌に詠まれた情景や作者の心情についての自分の考えを、他の学習者と比べて相対化しようとして、和歌の形式や表現の特徴、その効果について、自分なりのことばで工夫して表現しようとしていたりしている。 読① 和歌に詠まれた背景や情景、作者の心情についての自分の考えを、他の学習者と比べて相対化したり、別の視点から見直したりしている。 読② 和歌の形式や表現の特徴、その効果についての理解を、和歌に詠まれた背景や情景、作者の心情についての自分の考えに生かして読んでいる。 言 歴史的背景などに注意し、古典の一節を的確に引用して和歌の紹介文を書き、古典の世界に親しんでいる。	読① 和歌に詠まれた背景や情景、作者の心情について、自分の考えをもっていない。 →「作者が見ている光景・置かれている状況」「その時の気持ち」について考えさせ、その感想を問う。 読② 和歌の形式や特徴が捉えられない。 →意味の切れめはどこにあるかに注意して音読させたり、俳句や標語、現代の歌詞などと比べて、共通点や相違点を考えさせたりして、表現の効果を目を向かわせる。 言 和歌の詠まれた歴史的背景に注意していない。 →作者が置かれている立場や状況について問うたり、歴史的背景についての解説を加えたりする。	Cア 伝国ア(ア) [言語活動] Cア(批評)

月	単元名	教材名【領域】 ●学習目標	時数	おもな学習活動	評価規準B (おおむね満足できる状況)	評価規準A (十分満足できる状況)	評価規準C(努力を要する状況)とその手だて	学習指導要領 の指導事項・ 言語活動例
		おくのほそ道【伝(古文)】 ●歴史的背景などに注意して古文を読み、作者のものの見方や考え方を捉える。 ●古文の優れた表現や文体の特徴に着目しながら、作品を読み深める。	4	◆学習目標を確認し、学習の見通しをもつ。 1 対句的な表現などを意識して、文章がもつリズムを味わいながら音読する。 2 芭蕉は「旅」についてどのように考えていたか、冒頭部分を読んで、現代の旅との違いにふれながらまとめる。 3 「平泉」の「時の移るまで涙を落としはべりぬ。」について、そのときの芭蕉の思いを想像する。 [学びをひろげよう] 4 『おくのほそ道』から一句選び、表現の工夫やその効果などについて紹介し合う。 ◆学習目標を再確認し、学びを振り返る。	関 作者のものの見方や考え方を捉えようしたり、作品を読み深めようしたりしている。 読① 歴史的背景などに注意して古文を読み、作者のものの見方や考え方を捉えている。 読② 古文の優れた表現や文体の特徴に着目しながら、作品を読み深めている。 言 歴史的背景などに注意して読んだり、古典の一節を引用した文章を書いたりして、古典の世界に親しんでいる。	関 作者のものの見方や考え方についての自分の考えを、他の学習者と比べて相対化しようしたり、自分なりのことばで工夫して表現しようしたりしている。 読① 作者のものの見方や考え方についての自分の考えを、他の学習者と比べて相対化したり、別の視点から見直したりしている。 読② 作品の読みと関連づけて古文の優れた表現や文体の特徴を捉え、自分のことばで説明している。 言 歴史的背景などに注意し、古典の一節を的確に引用して俳句の紹介文を書き、古典の世界に親しんでいる。	読① 作者のものの見方や考え方を捉えられない。 →作者が置かれている立場や状況、考え方の特徴について問う。 読② 古文の優れた表現や文体の特徴に着目して作品を読み深めていない。 →作品に描かれている情景や作者の心情と、俳句が表現している内容とを関係づけさせる。 言 歴史的背景に注意して作品を読んでいない。 →作者が置かれている立場や状況について問うたり、歴史的背景についての解説を加えたりする。	Cア 伝国ア(ア) [言語活動] Cア(批評)
		論語【伝(漢文)】 古典情報 漢文の読み方【伝(漢文)】 ●漢文の響きやリズムに注意しながら読み、孔子のものの見方や考え方を捉える。 ●「論語」のことばをきっかけにして、人間の生き方についての自分の考えをもつ。	2	◆学習目標を確認し、学習の見通しをもつ。 1 漢文特有の表現やリズムに注意して音読する。 2 「論語」のことばの中から一つ選んで引用し、自分の身のまわりの事柄と関連づけて、考えたことを文章にまとめる。 [学びをひろげよう] 3 A・Bを比べて、「読み方」「表記の仕方」「受ける印象」などの違いについて考える。 A 温故知新 B 故きを温めて新しきを知る。 ◆学習目標を再確認し、学びを振り返る。	関 孔子のものの見方や考え方を捉えようしたり、人間の生き方について自分の考えをもとうとしていたりしている。 読① 漢文の響きやリズムに注意しながら読み、孔子のものの見方や考え方を捉えている。 読② 「論語」のことばをきっかけにして、人間の生き方についての自分の考えをもっている。 言 歴史的背景などに注意して読み、古典の世界に親しんでいる。	関① 孔子のものの見方や考え方をふまえた人間の生き方についての自分の考えを、他の学習者と比べて相対化しようとして表現しようとしていたりしている。 読① 漢文の響きやリズムを生かして朗読している。 読② 孔子のものの見方や考え方をふまえた人間の生き方についての自分の考えを、他の学習者と比べて相対化したり、別の視点から見直したりしている。 言 歴史的背景などに注意し、古典の一節を的確に引用して自分に関する文章を書き、古典の世界に親しんでいる。	読① 漢文の響きやリズムを生かして朗読していない。 →注意すべき漢字や読み方について、留意点を書き込ませる。 読② 「論語」のことばをきっかけにした人間の生き方について自分の考えをもっていない。 →自分の実経験に関係づけられる文章を選ばせ、そこから何を考えられるかを問う。 言 歴史的背景に注意して作品を読んでいない。 →孔子が置かれている立場や状況、考え方の特徴について問う。	Cエ 伝国ア(ア) [言語活動] Cア(批評)
		漢字のしくみ 慣用句・ことわざ・四字熟語【漢】 ●慣用句・ことわざ・四字熟語などについての理解を深める。	1	1 慣用句・ことわざ・四字熟語について理解を深める。 2 「確かめよう」の課題に取り組む。	関 慣用句・ことわざ・四字熟語などに関心をもち、積極的に課題に取り組んでいる。 言 慣用句・ことわざ・四字熟語などについての理解を深めている。	関 「確かめよう」の課題をとおして、慣用句・ことわざ・四字熟語への関心をさらに深めている。 言 慣用句・ことわざ・四字熟語について、具体的な表現に即してさらに深く理解を深めている。	言 慣用句・ことわざ・四字熟語を使った単文が作れない。 →国語辞典を引いて、例文を書き写させる。	伝国イ(イ)
		漢字を身につけよう5【漢】 ●漢字の読み書きについての理解を深める。		1 中学校で学習する漢字を読む。 2 中学校で新しく学習する特別な読み方を学ぶ。 →p286資「三年生で学ぶ漢字字典」	関 新しく学習する漢字の読み書きについて関心を深め、意欲的に習得しようとしている。 言 新しく学習する漢字の読み書きについて理解を深めている。	関 「漢字を身につけよう」の課題をとおして、新しく学習する漢字の読み書きへの関心をさらに深めている。 言 新しく学習する漢字の読み書きを確実に身につけている。	言 新しく学習する漢字が読めない。 →参考資料「三年生で学ぶ漢字字典」「三年生で学ぶ音訓」から読み方を探させる。	伝国ウ(ア)
11	④ 情報 を 読 み 解 く	情報社会を生きる—メディア・リテラシー【読(論説)】 新聞記事を読み比べよう【読(報道)】 ●文章中における語句の効果的な使い方を捉える。 ●文章の構成や表現の仕方について読み取り、評価する。	4	◆学習目標を確認し、学習の見通しをもつ。 1 「メディアがもたらす利点と限界」について、筆者が「利点」「限界」を述べている段落を探す。 2 本文中で同じような意味で使われていることばを探して書き抜く。 ・「情報を形づくる」 ・「事実を選び取る」 ・「情報を送り出す」 3 文章の構成や表現の仕方に見られる筆者の工夫をあげ、その効果を考える。 [学びをひろげよう] 4 A・Bどちらかの課題を選んで取り組む。 A p138-139の「新聞記事」を読み比べる。 B これまでに行ったリーフレットづくり、新聞づくり、雑誌づくりなどを振り返り、それらの編集過程において「情報の取捨選択」がどのように行われたかについて話し合う。 ◆学習目標を再確認し、学びを振り返る。	関 語句の効果的な使い方を捉えようしたり、文章構成や表現の仕方について評価しようとしていたりしている。 読① 文章中における語句の効果的な使い方を捉えている。 読② 文章の構成や表現の仕方について読み取り、評価している。 言 和語・漢語・外来語などの使い分けに注意し、語感を磨き語彙を豊かにしている。	関 筆者の主張をふまえて、身の回りのメディアについて考えたり、送り手としての自分を意識したりしようとしている。 読① 抽象的な概念や難解な内容をわかりやすく説明するための語句の効果的な使い方について評価し、自分のことばで説明している。 読② 文章の構成や表現の仕方についての評価を他の学習者と交流し、自分の評価やその表現について見直して、よりの確かなものに改善している。 言 文章(や話しことば)の中の外来語(カタカナ語)のバランスや効果を意識し、自覚的に使用している。	読① 語句の使い方の効果がどのような点にあるのか捉えることができない。 →「わかりやすい/わかりにくい」「興味深い/関心がもてない」など、生徒自身が内容や表現についてもった印象を自覚し、表現するための観点を提示し、発表しやすくする。 →「よくわからないが、なんとなく気になった(引っかかった)語句」を指摘し、交流することによって、その語句が特別なはたらきをしていることに気づかせる。また、その効果を説明する表現(「わかりやすい」「強く印象づけられる」など)を具体的に示し、そのまま使わせる。 読② 構成や表現の仕方の特徴や効果を捉えることができない。 →ある段落を削除したり、別の表現と置き換えてみたりして、わかりやすさや受ける印象の違いを比べさせる。 言 語句の使い分けを意識することができない。 →外来語(カタカナ語)に着目させ、その用いられ方や受ける印象について自由に発言させたり、交流させたりする。	Cア・Cウ [言語活動] Cイ(報道の 情報を比較)

月	単元名	教材名【領域】 ●学習目標	時数	おもな学習活動	評価規準B (おおむね満足できる状況)	評価規準A (十分満足できる状況)	評価規準C(努力を要する状況)とその手だて	学習指導要領の指導事項・言語活動例
		ことば発見2 敬語の機能と敬意表現【言】 ●敬語の機能と敬意表現についての理解を深める。	1	1 状況に応じた効果的な敬語の使い方を考える。 2 さまざまな敬意表現について考える。	関 敬語の機能と敬意表現に関心をもち、積極的に学習に取り組んでいる。 言 敬語の機能と敬意表現についての理解を深めている。	関 敬意を表すさまざまな表現を具体的な状況に合わせて使い分け、相手に対して配慮しながら実生活に活用しようとしている。 言 あげられている例文や場面の違いから敬語の機能と敬意表現についての理解をさらに深めている。	言 具体的な場面で適切な敬語表現を使えない。 →互いに役割を決めて、短い会話を演習させる。	伝国イ(ア)
		観察や分析をとおして、判断する 批評文【書】 ●取材や分析をとおして課題に対する自分の立場や考えを定め、論理展開が明解な文章構成を工夫して書く。 ●書いた文章を互いに評価し合うことによって、表現をよりよいものに高め、ものの見方や考え方を深める。	6	◆学習目標と学習の流れを確認し、学習の見通しをもつ。 1 学校や社会のできごとから対象を選び、課題を設定する。 2 対象を観察し、分析する。 →p260資「インタビューをする」/p261資「アンケートをとる」 3 判断と評価を行い、下書きをする。 4 判断や評価の根拠を補強する。 5 批評文を書く。 6 批評文を読み合い、根拠・論理展開・分析の観点や方法について交流する。 ◆学習目標を再確認し、学びを振り返る。	関 観察や分析をとおして行った判断をもとに、説得力のある批評文を書こうとしている。 書① 取材や分析をとおして課題に対する自分の立場や考えを定め、論理展開が明解な文章構成を工夫して書いている。 書② 書いた文章を互いに評価し合うことによって、表現をよりよいものに高め、ものの見方や考え方を深めている。 言 分析・判断・評価をとおして、ことばの選択や使い分けなどについて考え、語感を磨き語彙を豊かにしている。	関 観察や分析をとおして行った判断の意義を理解し、説得力のある批評文を書こうとしている。 書① 取材や分析をとおして課題に対する自分の立場や考えを定め、目的に向けての効果を意識しながら、論理展開が明解な文章構成を工夫して書いている。 書② 書いた文章を互いに評価し合うことの意義や価値を理解し、それによって、表現をよりよいものに高め、ものの見方や考え方を深めている。 言 分析・判断・評価をとおして、ことばの選択や使い分けについて考えるとともに、その大切さを意識して、語感を磨き語彙を豊かにしている。	書① 課題に対する自分の立場や考えが不明確である。 →課題に対しての自分の考えを根拠を挙げて明確にさせる。 書② 評価し助言し合った内容を、表現に生かされていない。 →他の学習者からの助言で最も納得した内容を指摘させ、それに基づいて文章全体を見直させる。 →146ページ「改善ポイント」①～④のいずれかについて代案を書かせる。 言 ことばの選択や使い分けなどについて理解していない。 →146ページの〈下書きの例〉から、ことばの選択や使い分けがうまいと思った部分に線を引かせる。	Bア・Bエ [言語活動] Bア(批評文)
		漢字を身につけよう6【漢】 ●漢字の読み書きについての理解を深める。		1 中学校で学習する漢字を読む。 2 中学校で新しく学習する漢字を学ぶ。 →p287資「三年生で学ぶ漢字字典」	関 新しく学習する漢字の読み書きについて関心を深め、意欲的に習得しようとしている。 言 新しく学習する漢字の読み書きについて理解を深めている。	関 「漢字を身につけよう」の課題をとおして、新しく学習する漢字の読み書きへの関心をさらに深めている。 言 新しく学習する漢字の読み書きを確実に身につけている。	言 新しく学習する漢字が読めない。 →参考資料「三年生で学ぶ漢字字典」「三年生で学ぶ音訓」から読み方を探させる。	伝国ウ(ア)
12	⑤ 読みを深め合う	初恋【読(詩)】 ●詩の形式をふまえて朗読し、描かれている思いを捉える。 ●表現の特徴とその効果を理解し、初恋の心情を味わう。	2	◆学習目標を確認し、学習の見通しをもつ。 1 文語定型詩の特徴とリズムに注意しながら朗読する。 2 「われ」の目に、「君」がどのように映っているか、連ごとに考える。 3 「林檎」を用いて初恋を表現していることについて、意見を発表し合う。 [学びをひろげよう] 4 「初恋」がテーマになっている詩や歌詞を探し、この作品と共通することや異なることを見つけて紹介し合う。 ◆学習目標を再確認し、学びを振り返る。	関 朗読して詩に描かれた思いを捉えようとして、表現の特徴と効果を理解して初恋の心情を味わおうとしている。 読① 詩の形式をふまえて朗読し、描かれている思いを捉えている。 読② 表現の特徴とその効果を理解し、初恋の心情を味わっている。 言 表現の特徴と効果に着目して読み、語感を磨き語彙を豊かにしている。	関 朗読の仕方を多様に工夫しようとして、(初)恋の心情を描いた他の文学作品を探して読むようとしている。 読① 読み取った思いや形式の特徴を朗読に生かすための多様な工夫をしている。 読② 初恋の心情を、詩の具体的な表現との関連を明確にしながら読み取り、その効果を評価しながら自分のことばで感想をまとめている。 言 文語定型詩のもつ特徴や語感、受ける印象を、自分のことばで多様に説明している。	読① 詩に描かれている思いが捉えられない。 →文語(歴史的仮名遣い)や、間の取り方(切れめや係り受け)を丁寧に確認することで、作品世界をイメージしながら朗読ができるようにする。 →題名や「君」など、手がかりとなる語を例示したり、難解と思われるものについては説明を加えたりする。 読② 表現の特徴が捉えられない。 →コラム(153ページ)を読ませたり、文語に対する印象を自由に発表させたりしながら、読解の困難点を少しずつ取り除いていくようにし、初恋の心情への共感を促す。 言 文語定型詩の特徴が捉えられない。 →繰り返し音読してリズムを実感したり、コラム(153ページ)を手がかりにしたりして、形式への抵抗感を減らし、表現の効果に目を向けさせる。	Cウ [言語活動] Cア(批評)
		故郷【読(小説)】 読み方を学ぼう⑤【人物設定】仕組まれた関係 ●場面や登場人物の設定の仕方を捉え、内容の理解に役立てる。 ●「私」と「閩土」の言動を根拠としながら、人間と社会について自分の考えをもつ。	5	◆学習目標を確認し、学習の見通しをもつ。 1 現在と過去を表す表現に注意して、場面を五つに分ける。 2 「私」の感じ方の変化を捉える。 3 故郷をあとにするときの「私」の心境について、登場人物それぞれの関係の変化を手がかりにしてまとめる。 [学びをひろげよう] 4 この作品の副題を考えて、理由とともに紹介し合う。 ◆学習目標を再確認し、学びを振り返る。	関 場面や人物の設定を捉えて内容を理解しようとして、人間と社会について自分の考えをもとうとしていたりしている。 読① 場面や登場人物の設定の仕方を捉え、内容の理解に役立てている。 読② 「私」と「閩土」の言動を根拠としながら、人間と社会について自分の考えをもっている。 言 登場人物や風景の描かれ方に着目して読み、語感を磨き語彙を豊かにしている。	関 小説を、社会や時代背景と関わらせて読むことのおもしろさを実感し、積極的に読み広げようとしている。 読① 登場人物の設定が、小説に果たしている役割を理解・評価して、自分のことばで説明している。 読② 人物の関係やその変化を、時代や社会の状況と関わらせて解釈し、小説のもつメッセージの理解に活用している。 言 情景描写の機能や効果を評価し、自分のことばで説明している。	読① 人物設定の特徴を捉えることができない。 →社会の状況をふまえて解釈すると、より深まることを指導者の説明によって実感させ、関心をもたせるようにする。 →登場人物をあげ、その設定・性格・役割について整理することをとおして、その人物の生活や「故郷」の現状を想像させる。 読② 人物や人間関係の変化と、社会の状況の変化との関連が意識できない。 →まずは小説内での変化を確認し、その要因が社会の状況とも関わっていることを説明して、もう一度検討させて、深まりを実感させる。 言 情景描写の意味や役割が理解できない。 →「読み方を学ぼう 情景描写」(1年⑥)を参照して情景描写について確認し、冒頭部に焦点化して、解釈の方法を理解させる。	Cイ・Cエ [言語活動] Cア(批評)

月	単元名	教材名【領域】 ●学習目標	時数	おもな学習活動	評価規準B (おおむね満足できる状況)	評価規準A (十分満足できる状況)	評価規準C(努力を要する状況)とその手だて	学習指導要領 の指導事項・ 言語活動例
		ことば発見3 ことばの現在・過去・未来【言】 ●ことばの現在・過去・未来についての理解を深める。	1	1 時代の経過に伴って、ことばの意味や用法が変化することについて考える。 2 世代間で意味や用法が異なることばを探す。	関 ことば現在・過去・未来に関心をもち、積極的に課題に取り組んでいる。 言 ことばの現在・過去・未来についての理解を深めている。	関 「確かめよう」の課題をとおして、ことばの変化や使われ方の違いへの関心をさらに深めている。 言 ことばの変化や使われ方の違いについて、具体的な例を探して的確に説明している。	言 ことばの変化や使われ方の違いの例を探し出せない。 →既習の古典教材から語形や意味が現在と異なる語を探させる。	伝国イ(ア)
		表現プラザ② 漢字一字で表現すると【書】 ●書かれたものに表れたそれぞれの個性を味わいながら、もの見方や考え方を深める。	3	◆学習目標と学習の流れを確認し、学習の見通しをもつ。 1 漢字辞典や国語辞典を活用して、自分を表す漢字を探す。 2 グループで「自分の漢字」を紹介し合う。 3 「自分の漢字」を決め、選んだ理由や、その漢字にまつわるエピソードを文章にまとめる。 4 書いた文章をもとにスピーチをしたり、未来の自分に向けたメッセージカードを作ったりして交流する。 ◆学習目標を再確認し、学びを振り返る。	関 自分を表す漢字を探して互いに紹介し合うことを楽しみながら、漢字にまつわるエピソードを書こうとしている。 書 書かれたものに表れたそれぞれの個性を味わいながら、もの見方や考え方を深めている。 言 漢字に関する知識やイメージを広げ、語感を磨き語彙を豊かにしている。	関 自分を表す漢字を探して互いに紹介し合うことの意義とおもしろさを感じながら、楽しんで漢字にまつわるエピソードを書こうとしている。 書 書かれたものに表れたそれぞれの個性を味わうとともに、提示された漢字と内容との関連を味わいながら、もの見方や考え方を深めている。 言 漢字に関する知識やイメージを広げ、漢字の奥深さを味わいながら、語感を磨き語彙を豊かにしている。	書 他の学習者の文章に感想を述べることができない。 →3人以上の文章を読み、選んだ漢字とその理由をノートにまとめさせる。 言 漢字に関する知識やイメージを広げ、語感を磨き語彙を豊かにしている。 →自分が選んだ漢字の意味を漢和辞典で調べさせる。	Bエ
		漢字を身につけよう7【漢】 ●漢字の読み書きについての理解を深める。		1 中学校で学習する漢字を読む。 2 中学校で新しく学習する読みを学ぶ。 →p289資「三年生で学ぶ漢字字典」	関 新しく学習する漢字の読み書きについて関心を深め、意欲的に習得しようとしている。 言 新しく学習する漢字の読み書きについて理解を深めている。	関 「漢字を身につけよう」の課題をとおして、新しく学習する漢字の読み書きへの関心をさらに深めている。 言 新しく学習する漢字の読み書きを確実に身につけている。	言 新しく学習する漢字が読めない。 →参考資料「三年生で学ぶ漢字字典」「三年生で学ぶ音訓」から読み方を探させる。	伝国ウ(ア)
1	⑥ 広がる世界へ	「文殊の知恵」の時代【読(論説)】 ●筆者の主張を捉え、身近な例や報道の例に目を向けながら内容を理解する。 ●文章を読んで、これからの社会について考え、自分の意見をもつ。	3	◆学習目標を確認し、学習の見通しをもつ。 1 「文殊の知恵」を生み出すためにはどのようなことが必要だと、筆者は述べているか、文章の展開に沿って書き出す。 2 「今必要とされているのは、この「文殊の知恵」である。」ということについてどう思うか、自分の身近な体験を交えて考えたことを文章にする。 [学びをひろげよう] 3 新聞やニュースなどから、価値観の違いによって問題が生じる例を探し、自分の意見をまとめる。 ◆学習目標を再確認し、学びを振り返る。	関 筆者の主張を捉え、例を考えながら内容を理解しようしたり、これからの社会についての自分の意見をもとうとしていたりしている。 読① 筆者の主張を捉え、身近な例や報道の例に目を向けながら内容を理解している。 読② 文章を読んで、これからの社会について考え、自分の意見をもっている。 言 慣用句・四字熟語などに関する知識を広げ、語感を磨き語彙を豊かにしている。	関 筆者の指摘があてはまる状況を想起し、その解決のために、筆者の主張や自分の考えを積極的に活用しようとしている。 読① 身近に起きている問題や報道で知った事柄について、筆者の主張との関わりを意識して解釈し、自分の考えをもっている。 読② 筆者の主張をふまえると、自分はどうのような見通しをもち、行動すべきか、主体的に考えている。 言 四字熟語やことわざ・慣用句などを用いて、伝わりやすく、わかりやすく端的に表現している。	読① 筆者の主張を、その他の事例にも通じるものとして理解できない。 →「徹底的な検証」の難しさや、「違い」を恐れてしまう場面が身近な生活経験の中にもないか考えさせ、筆者が述べていることが自身の生活に無関係ではないことを実感させる。 →国際紛争のような価値観の衝突がもたらす問題を事例として提示し、筆者の主張があてはまる点について考えさせる。 読② 筆者の主張を、自分自身の問題として実感できない。 →日常生活・学校生活の中で、「価値観の違い」によって、話し合いや協力がうまくいかなかった経験を想起し、交流する。 言 慣用句や四字熟語の語感や効果を実感できない。 →「文殊の知恵」という表現を用いずに題名を考えたり要旨をまとめたりすることに取り組みませ、その効果を実感させる。	Cエ [言語活動] Cイ(論説の情報と比較)
		問いをもとに語り合う ワールド・カフェ【話聞】 ●相手に応じてわかりやすい表現を使ったり、聞き手に問いかけたりしながら、その場の全員で理解を深めていくことができるように話す。 ●互いの思いや考えを生かし合い、課題について深く考えたり、新しい価値を創造したりするような話し合いの場を作る。	2	◆学習目標と学習の流れを確認し、学習の見通しをもつ。 1 テーマとなる「問い」を決める。 2 ワールド・カフェを開催する。 ・第1ラウンド/グループ替え ・第2ラウンド/グループ替え ・第3ラウンド ・全体での振り返り ◆学習目標を再確認し、学びを振り返る。	関 一つの問いをもとに和やかな雰囲気大切にしながら、ワールド・カフェに積極的に取り組んでいる。 話聞① 相手に応じてわかりやすい表現を使ったり、聞き手に問いかけたりしながら、その場の全員で理解を深めていくことができるように話している。 話聞② 互いの思いや考えを生かし合い、課題について深く考えたり、新しい価値を創造したりするような話し合いの場を作っている。 言 創造的な場を築くための表現を工夫して、語感を磨き語彙を豊かにしている。	関 一つの問いをもとに和やかな雰囲気大切にしながら、ワールド・カフェの意義と効果を捉えて、積極的に取り組んでいる。 話聞① 相手に応じてわかりやすい表現を使ったり、聞き手に問いかけたりしながら、相手に応じた表現や聞き手への問いかけを効果的に用いて話している。 話聞② 互いの思いや考えを生かし合うことの大切さを理解し、課題について深く考えたり、新しい価値を創造したりするような話し合いの場を効果的に作っている。 言 創造的な場を築くための表現の意義に気づき、効果的に用いて、語感を磨き語彙を豊かにしている。	話聞① 聞き手に問いかけることができない。 →(自分の考えを述べた後で)「みなさんはどうですか?」を会話に挟むように提示する。 話聞② 話し合いの中で、互いの思いや考えを生かし合えない。 →話し合いで他の学習者から得たことをノートに書かせる。 言 創造的な場を築くための表現ができない。 →創造的な話し合いを促進することばを集めた、「このフレーズを使ってみよう!」を提示する。	Aイ・Aエ

月	単元名	教材名【領域】 ●学習目標	時数	おもな学習活動	評価規準B (おおむね満足できる状況)	評価規準A (十分満足できる状況)	評価規準C(努力を要する状況)とその手だて	学習指導要領 の指導事項・ 言語活動例
2		坊っちゃん 【読(小説)】 ●語句の使われ方に注意して読み、表現の仕方について評価する。 ●作品をきっかけとして、同じ作者の本や文章などを読み、考えを深める。	3	◆学習目標を確認し、学習の見通しをもつ。 1 登場人物の性格や人柄を表すことばを文章中から探す。 2 探したことばが、誰について述べたものかを整理する。 3 「坊っちゃん」の行動に対する評価について、「清」とその他の人たちとで異なっているのはなぜかを考える。 4 「坊っちゃん」と「清」が別れる場面について、感じたことや考えたことを交流する。 [学びをひろげよう] 5 A・Bどちらかの課題を選んで取り組む。 A 同じ作者の作品を読み、気に入った場面を選んで、表現の特徴を生かして朗読する。 B 近代文学の作品を読んで紹介し合う。 ◆学習目標を再確認し、学びを振り返る。	関 表現の仕方について評価しようとして、同じ作者の本などを読み、考えを深めようとしていたりしている。 読① 語句の使われ方に注意して読み、表現の仕方について評価している。 読② 作品をきっかけとして、同じ作者の本や文章などを読み、考えを深めている。 言 語句の使われ方に注意して、時間の経過によることばの変化を理解し、語感を磨き語彙を豊かにしている。	関 近代文学の作品に関心を持ち、積極的に読み広げたり、現代の作品と比較したりしようとしている。 読① 一人称の語り文体の特徴に気づき、朗読によってそのよさを味わっている。 読② 夏目漱石や同時代の作家・作品に関心を持ち、積極的に読み広げて、そのおもしろさを実感している。 言 現代とは異なる文体や語り口に親しみ、そのおもしろさや味わいを、自分のことばで説明している。	読① 表現の特徴やよさを実感することができない。 →教師が音読して軽快なリズムを実感させたり、現代との共通点に目を向けさせたりして、できるだけ抵抗感を取り除くようにする。 →軽快な語り口とは裏腹の主人公の寂しさや悲しみに気づかせることで、表現や文体が多層的な深みをもつものであることを実感させる。 読② 読み広げようとする興味・関心がおこらない。 →本教材の続きの一部を紹介したり、他の漱石作品あるいは近代文学作品の中から親しみやすいものを提示したりすることをおして、読むことへの抵抗感を減じようとする。 言 現代とは異なる語句の使い方や文体に違和感をもっている。 →朗読を聞かせたり、現代風の表現にしたものと比べたりしながら、作品の特徴やよさを説明し、実感させるようにする。落語の語り口にふれさせてみるのもよい。	Cア・Cイ・Cオ [言語活動] Cア(批評)
		漢字を身につけよう8 【漢】 ●漢字の読み書きについての理解を深める。		1 中学校で学習する漢字を読む。 2 中学校で新しく学習する特別な読み方を学ぶ。 →p290頁「三年生で学ぶ漢字字典」	関 新しく学習する漢字の読み書きについて関心を深め、意欲的に習得しようとしている。 言 新しく学習する漢字の読み書きについて理解を深めている。	関 「漢字を身につけよう」の課題をおして、新しく学習する漢字の読み書きへの関心をさらに深めている。 言 新しく学習する漢字の読み書きを確実に身につけている。	言 新しく学習する漢字が読めない。 →参考資料「三年生で学ぶ漢字字典」「三年生で学ぶ音訓」から読み方を探させる。	伝国ウ(ア)
3		中学校生活を振り返って 名言集 【話聞/書】 ●聞き取った内容を判断したり評価したりして、自分のものの見方や考え方を深める。 ●目的や課題に応じて文章を集め、効果的な形態を選び、適切な構成を工夫する。	7	◆学習目標と学習の流れを確認し、学習の見通しをもつ。 1 編集方針を立てる。 2 ことばを集める。 3 ことばを選び、構成を決める。 4 推敲し、清書する。 →p269頁「推敲の仕方と観点」 5 交流する。 6 学習を振り返る。 ◆学習目標を再確認し、学びを振り返る。	関 中学校生活を振り返り、名言集づくりに積極的に取り組んでいる。 話聞 聞き取った内容を判断したり評価したりして、自分のものの見方や考え方を深めている。 書 目的や課題に応じて文章を集め、効果的な形態を選び、適切な構成を工夫している。 言 古典の一節を引用するなどして、自分の生き方にまつわる文章を書いている。	関 中学校生活を振り返り、名言集をつくることの意義を理解し、積極的に取り組んでいる。 話聞 聞き取った内容の価値を判断したり評価したりして、自分のものの見方や考え方を深めている。 書 目的や課題に応じて文章を集めることの意義を理解し、効果的な形態を選び、適切な構成を工夫している。 言 古典の一節を引用することによる表現の効果を理解し、自分の生き方にまつわる文章を書いている。	話聞 その時の助言や励ましを振り返ることができず、自分にどんな影響を与えたか理解していない。 →入学、進級、部活動、学級などのポイントを提示し、そこで起こったことや助言・励ましを思い起こさせる。 →友達や先輩・先生の助言を思い起こさせ、自分にどんな励ましになったかノートに書かせる。 書 「名言」を使った効果的な表現ができていない。 →思い出や励ましのことばを時間の流れの順に並べさせる。 言 古典の一節を引用していない。 →自分の思い出と共通点のある(古典)作品の一つ挙げさせる。	Aウ・Bア
		歌のことば 誓い						
		三年間の文法の総まとめ 【言】	1	※ことばの特徴やきまりについて、学習の中で適宜参照する。	関 ことばの特徴やきまりについて理解を深め、語感を磨き語彙を豊かにしようとしている。 言① 単語の類別について理解を深めている。 言② 文の成分の順序や照応などについて理解を深めている。 言③ 単語の活用について理解し、助詞や助動詞などはたらきについて理解を深めている。	関 文法全体をまとめることをとおして、ことばの特徴やきまりについてさらに理解を深め、語感を磨き語彙をより豊かにしようとしている。 言① ことばのまとまりと単語の類別を関連づけて理解を深めている。 言② ことばのまとまりと文の成分の順序や照応などを関連づけて理解を深めている。 言③ 述語の構成と単語の活用や助詞や助動詞などはたらきを関連づけて理解を深めている。	言① 単語の類別について気づいていない。 →文を単語に切り分け、品詞を書き込ませる。 言② 文の成分の順序や照応についてのきまりに気づいていない。 →文の成分の順序や照応について不適格な文を示して、修正をさせる。 言③ 単語の活用や助詞・助動詞についてのきまりに気づいていない。 →単語の活用や助詞・助動詞の使い方について不適格な文を示して、修正をさせる。	伝国1年イ(エ)・伝国2年イ(ウ)・イ(エ)・伝国イ(イ)